

史跡 斎宮跡

令和4年度現状変更緊急発掘調査報告

令和6（2024）年3月

明 和 町

例 言

- 1 本書は、令和4（2022）年度に明和町が実施した史跡齋宮跡（三重県多気郡明和町齋宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第202-2～4・6次調査は明和町が費用を全額負担したが、それ以外については文化庁及び三重県の補助金を受けて実施している。
- 3 調査は明和町が主体となり、齋宮歴史博物館および明和町齋宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6AL13）については、齋宮歴史博物館2003『史跡齋宮跡 平成13年度発掘調査概報』による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構・遺物の時期区分については、齋宮歴史博物館2019『齋宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 出土遺物編』に拠り、その標記については「齋宮跡Ⅰ期第1段階」と表記するが、本文中ではこれを簡略的に「齋宮Ⅰ-1期」と、遺構一覧・遺物観察表等では「齋宮Ⅰ-1」等としている。
- 7 遺構記号は、文化庁文化財部記念物課2010『発掘調査のてびき一集落遺跡発掘編一』に準拠し、遺構の種類から以下のように表記する。
SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SI：竪穴建物 SK：土坑 SZ：周溝墓・古墳
SP：柱穴・ピット（SA・SB・SIに伴う柱穴はP+番号と表記） SX：その他・不明遺構
- 8 土層および出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（2004年度版）に拠る。施釉陶器の色調については一部、大日本インキ化学工業株式会社発行『日本の伝統色』第5版（1989年）を用いて補っている。
- 9 図面・写真等の調査資料および出土遺物は、齋宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の執筆は、小原雄也・川部浩司（齋宮歴史博物館）が前言・調査報告を、味噌井拓志（明和町齋宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は小原・味噌井が担当した。
- 11 本書の発掘調査で得られた所見については、下記の文献で補足・整理を行った。

小原雄也 2024「史跡齋宮跡第202次調査にかかる調査所見の整理」『齋宮歴史博物館研究紀要』33 齋宮歴史博物館

目 次

I 前言	1	(小原)	1
II 調査報告			
1 第202-1次調査	1	(小原)	1
2 第202-2次調査	7	(川部)	7
3 第202-3次調査	8	(小原)	8
4 第202-4次調査	16	(小原)	16
5 第202-5次調査	17	(小原)	17
6 第202-6次調査	23	(小原)	23
付編 史跡現状変更等許可申請	32	(味噌井)	32

表・挿図目次

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移	1	第3表 第202次調査 出土遺物一覧表	26~32
第2表 第202次調査 遺構一覧表	25~26	第4表 令和4年度現状変更等許可申請一覧	33
第1図 第202-1次調査区位置図	1	第14図 第202-3次調査 個別遺構図③	13
第2図 発掘調査地位置図	2	第15図 第202-3次調査 遺物実測図①	15
第3図 第202-1次調査 遺構平面図	3	第16図 第202-3次調査 遺物実測図②	16
第4図 第202-1次調査 調査区土層図	4	第17図 第202-4次調査区位置図・遺構平面図・ 調査区土層図	17
第5図 第202-1次調査 個別遺構図	5	第18図 第202-5次調査区位置図	17
第6図 第202-1次調査 遺物実測図①	6	第19図 第202-5次調査 遺構平面図	18
第7図 第202-1次調査 遺物実測図②	7	第20図 第202-5次調査 調査区土層図	19
第8図 第202-2次調査区位置図・遺構平面図・ 調査区土層図	8	第21図 第202-5次調査 個別遺構図	20
第9図 第202-3次調査区位置図	8	第22図 第202-5次調査 遺物実測図①	21
第10図 第202-3次調査 遺構平面図	9	第23図 第202-5次調査 遺物実測図②	22
第11図 第202-3次調査 調査区土層図	10	第24図 第202-6次調査区位置図	23
第12図 第202-3次調査 土層注記・個別遺構図①	11	第25図 第202-6次調査 遺物実測図	23
第13図 第202-3次調査 個別遺構図②	12	第26図 第202-6次調査 遺構平面図・調査区土層図	24

写真図版

写真図版1 第202-1次調査 調査区全景/第202-1次調査 SI5469/第 202-1次調査 SZ11404/第202-2次 調査区全景/第202- 4次 調査区全景	写真図版3 第202-3次調査 SB11530/第202-3次調査 SB11531/第202- 3次調査 SB11532/第202-3次調査 SK11554/第202-5 次調査 SB11589、SD2042・2043/第202-5次調査 SZ11593
写真図版2 第202-3次調査 調査区遠景/第202-3次調査 調査区近景	写真図版4 第202-5次調査 調査区全景/第202-6次調査 調査区全景

I 前 言

令和4年度には56件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移しており、令和2年度は60件を超えたものの、令和4年度は例年並みの件数となった。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築や改築、盛土造成等、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡の環境整備（将来的な整備に向けた検討や排水路整備）等の歴史的風致維持向上計画（以下、「歴まち整備事業」）に伴う現状変更があり、事前の発掘調査や工事立会いに対応した。このうち、発掘調査が必要となった案件は6件で、調査面積の合計は約1912.4㎡である。

第202-1・5次調査は宅地や資材置場設置に伴う盛土造成、第202-2・4次調査は個人住宅等の新築に伴う浄化槽の埋設に先立って実施したものである。第202-3次調査は、明和町が新たに公有化した土地での将来的な整備検討のために実施した発掘調査である。第202-6次調査は、「歴まち整備事業」に伴い、方格街区の「西加座北区画」において排水路改修に関連した発掘調査である。これらの調査では、遺構密度や遺構面までの深さの確認といった史跡保護にかかる情報の蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって重要な成果を得られた。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積 (㎡)
昭和54～平成30まで	1,781	468	70,208.1	287	26,713.1
令和 元	27	7	2,007.3	5	349.3
2	65	13	717.7	6	418.7
3	40	11	740.7	6	151.6
4	56	6	1,912.4	2	998.0
	1,969	505	75,586.2	306	28,630.7

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

II 調査報告

1 第202-1次調査（6AK4）

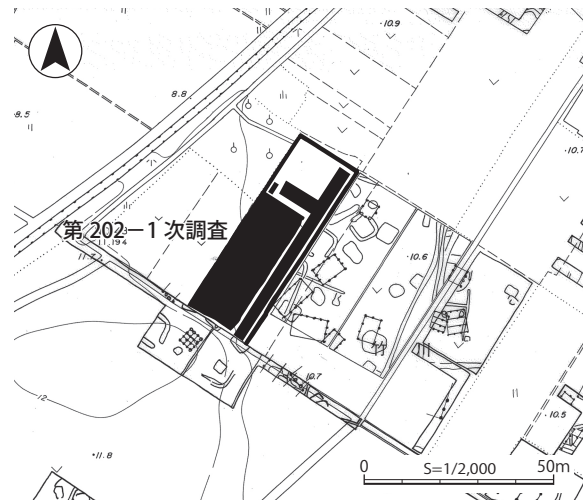
調査場所 多気郡明和町大字竹川字古里582-2

原 因 盛土造成工事

調査期間 令和4年3月26日～7月5日、9月1日

調査面積 510.9㎡

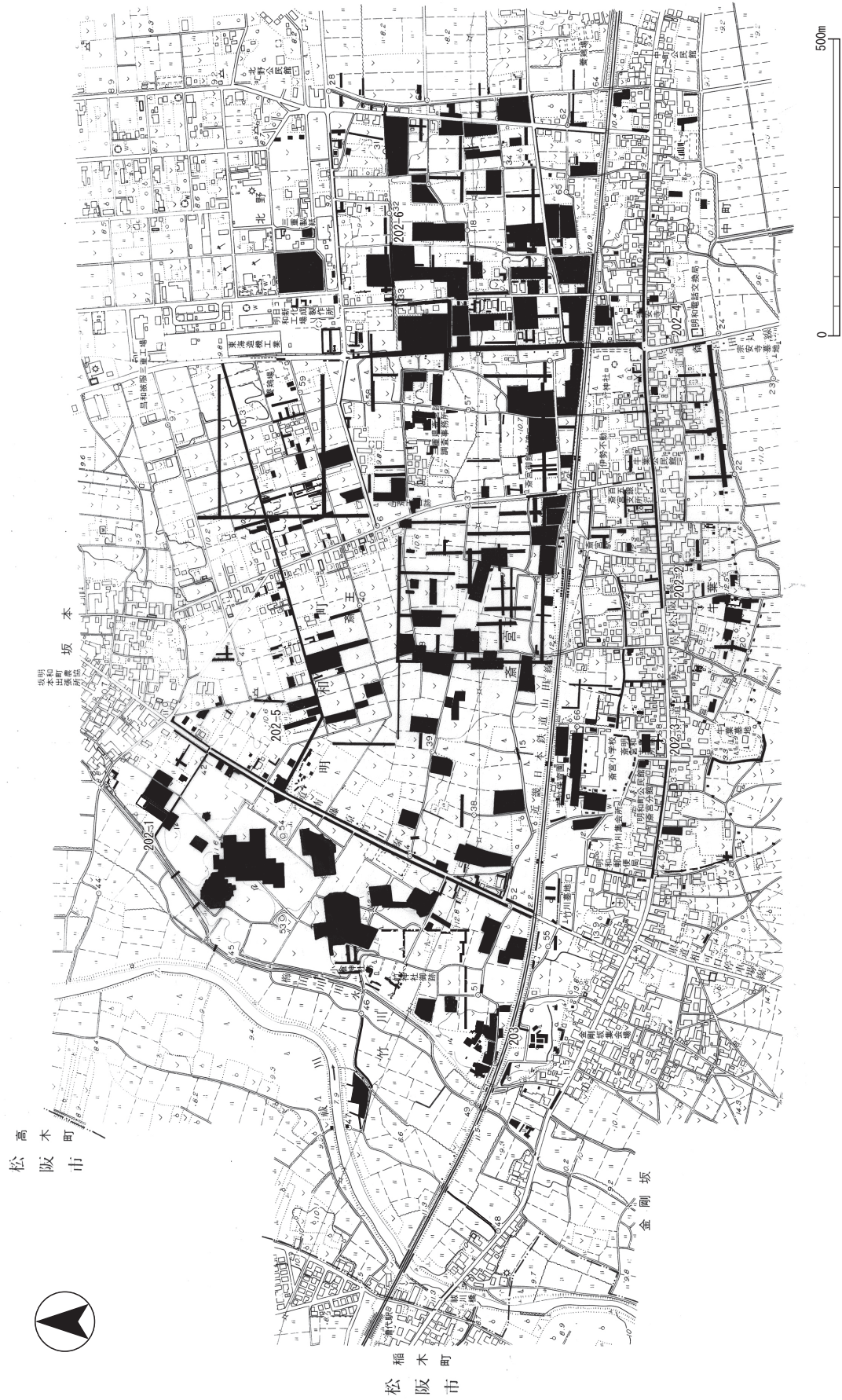
調査概要 宅地造成に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡西部の畑地で、斎宮歴史博物館から北東に約150mの地点にある。申請地内では、これまでに第198-12次調査、第201-2・5次調査を実施している。当該調査は盛土工事と敷地西側境界のブロック塀工事の範囲である南北約35.7m・東西約15.3mの範囲で行った。



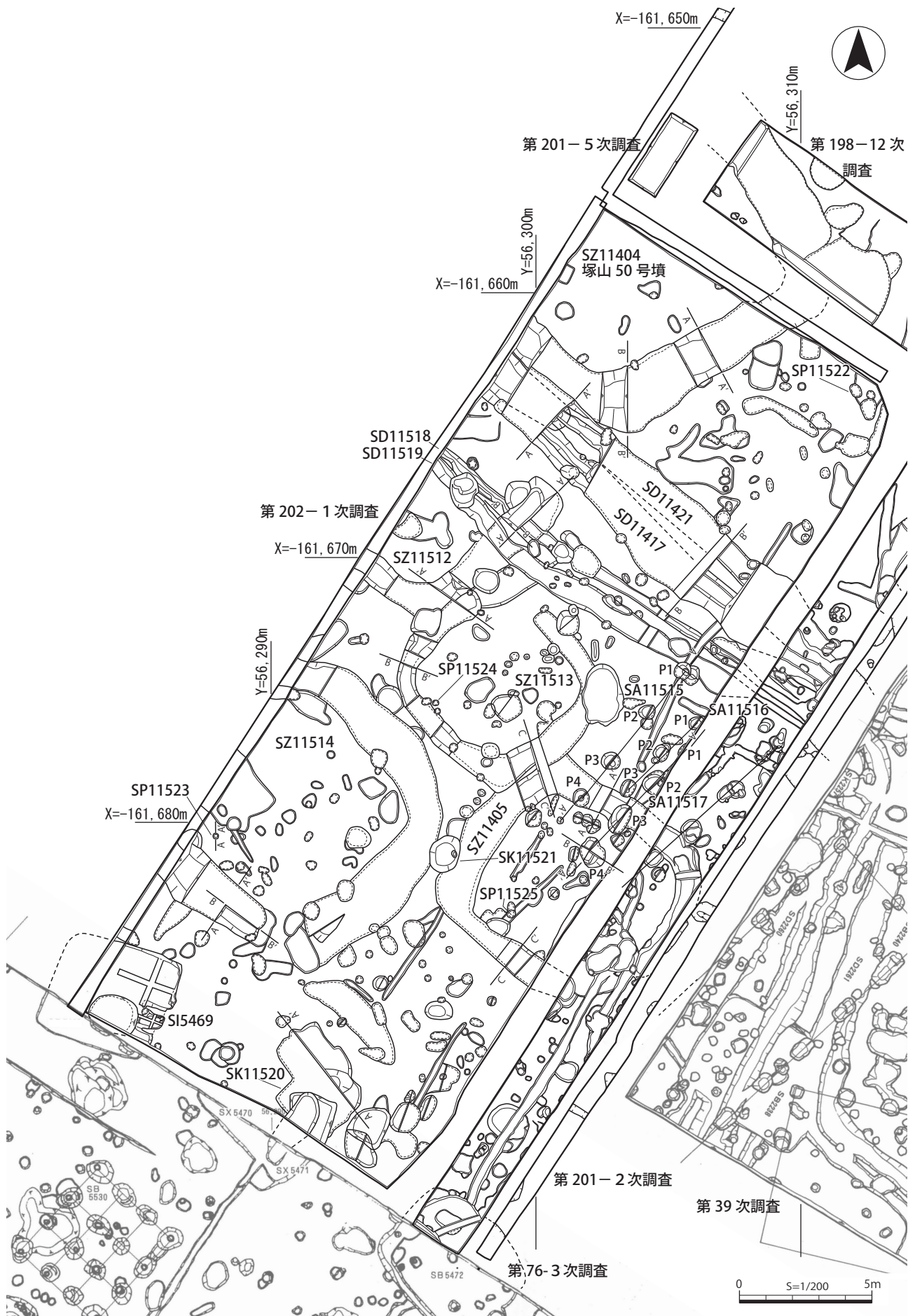
第1図 第202-1次調査区位置図（1/2,000）

発掘調査では、古代以降の遺構の大半が、遺物包含層上面から掘り込んでいることを確認できたが、遺構検出については遺物包含層上面で行うことが困難な状況であり、誤認を避けるため地山直上で行った。地表面から遺物包含層上面までの深さは約0.2～0.3m（標高約11.1m）、地山面までの深さは約0.4～0.5m（標高約10.7～10.8m）であり、調査区南側から北側にかけて緩やかに傾斜する地形となる。なお、ブロック塀設置範囲にあたる調査区西端（延長約36.1m・幅約0.5m）については、工事の影響を受ける地表面から深さ約0.4mで掘削を留めているため、調査区北端から南に約15mまでは遺物包含層内で収まり、これより南側は地山上面に達している。

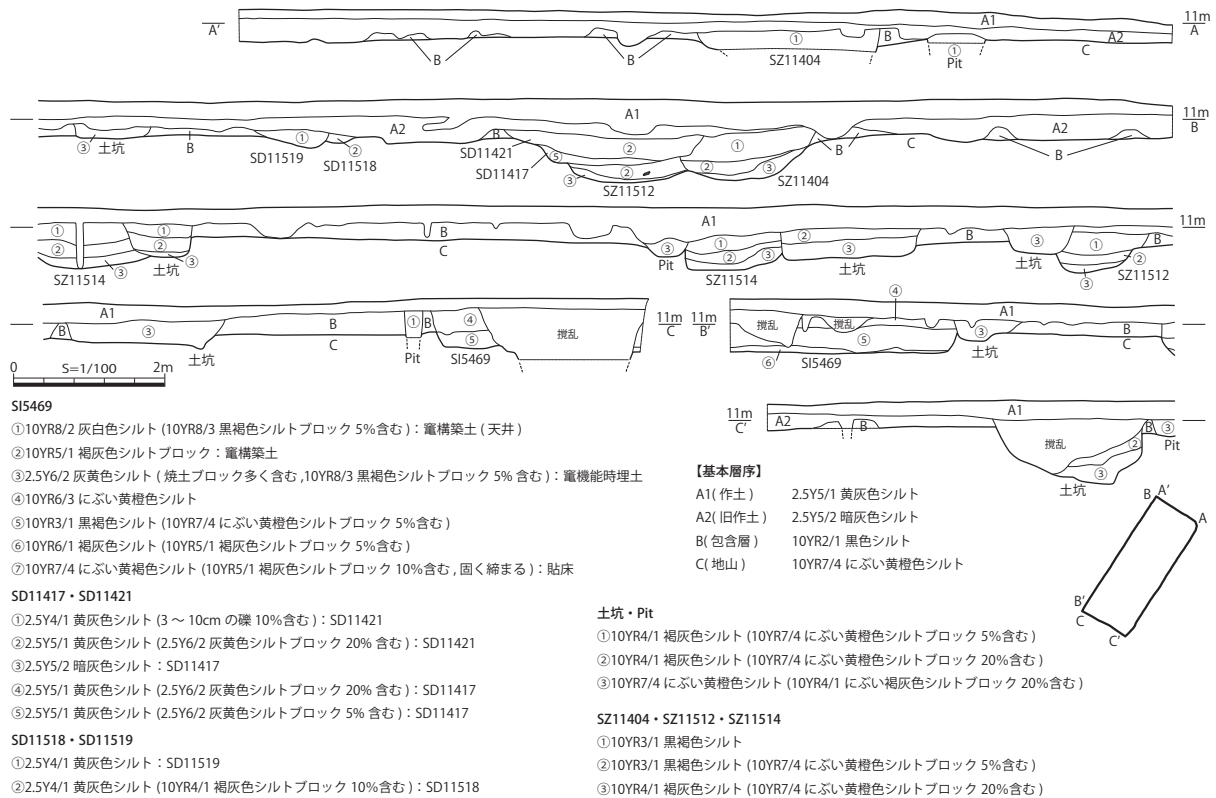
検出された遺構には、弥生時代後期の方形周溝墓4基、古墳時代中～後期の方墳1基、奈良時代の掘立柱列3条、奈良時代の竪穴建物1棟と土坑1基、鎌倉時代の溝4条、江戸時代の溝や土坑等がある。



第2図 発掘調査地位置図 (1/10,000)



第3図 第202-1次調査 遺構平面図 (1/200)



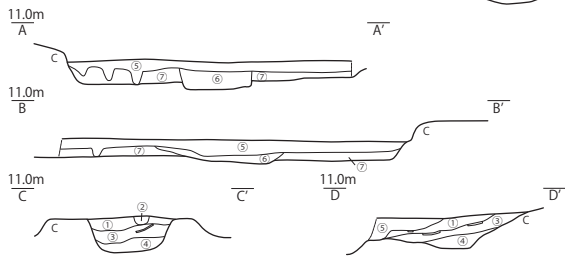
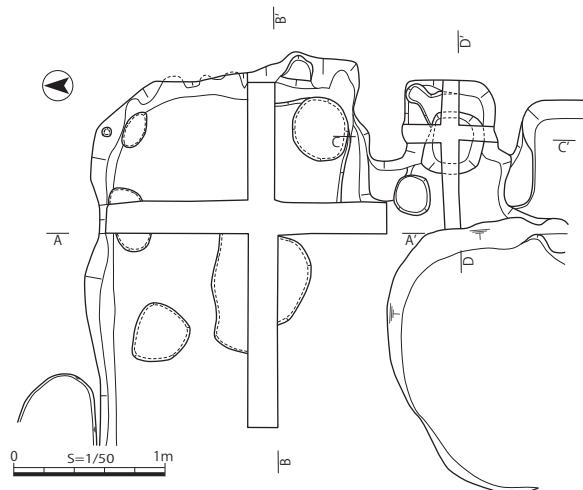
第4図 第202-1次調査 調査区土層図 (1/100)

弥生時代後期の方形周溝墓 (SZ11405・11512~11514) は、いずれも隅切れの周溝をもち、SZ11405・11512・11513 については、周溝の一部が重複する状況を確認できる (第3・5図)。墳丘の規模は、SZ11405が一辺6~6.5m、SZ11512・SZ11514が一辺約7m、SZ11513が一辺5~5.5mである。SZ11405は、周溝の3箇所にてトレンチを設定しており、北東側トレンチでは弥生土器の壺 (第6図No.41)、南西側トレンチでは弥生土器の高杯 (第6図No.42) が、それぞれ下層から出土している。また、北西側トレンチでは、土層の堆積状況から重複する周溝の先後関係を確認しており、SZ11405の後にSZ11513が形成され、周溝の最終堆積は同時期であると把握できた (第5図)。SZ11512は下層から弥生土器の壺 (第6図No.43・44) が出土している。

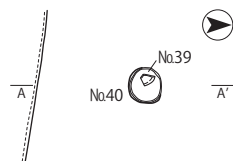
古墳時代中~後期と想定される方墳 (SZ11404) は、塚山古墳群に属するもので、新たに塚山50号墳と整理した (第3・5図)。墳丘の規模は、一辺9~9.5mである。調査では3箇所にてトレンチを設定しており、周溝南東辺トレンチでは最終堆積層の上面で土師器の甕2点を検出した (第5図)。長胴甕 (第7図No.46) は、胴部上半が欠損したもので、胴部下半と土師器甕 (第7図No.47) の口縁部を向い合せにした状態で出土しており、ともに底部には穿孔が確認できる。土師器甕の検出時には、周溝と土坑等との重複を想定していたが、明確な遺構の掘り込みは確認できないため、これらは周溝の最終埋没の段階で据えられたものと判断した。土師器甕の検出時には、周囲から赤褐色に焼成された須恵器甕 (第7図No.48) が出土している。

奈良時代の竪穴建物 (SI5469) は、一辺4~4.5mで平面形が方形を呈し、東面の壁際に造り付け竈がみられる (第3・5図)。竈は、規模が長辺0.9m・短辺0.6mで、天井部の構築土が崩落した状態で埋没しており、底部の中央には一辺0.4m四方の隅丸方形の掘り込みがみられる。焼土を含む竈機能時の埋土からは土師器甕 (第6図No.4~7) が出土している。竪穴建物は、床面に貼床とみられる硬化した層がある。建物の支柱穴や壁周溝は確認できない。建物廃棄後と想定される堆積層 (土層No.5) からは、土師器の杯・甕片等が出土している。建物の時期は、斎宮I-2期と考えられる。

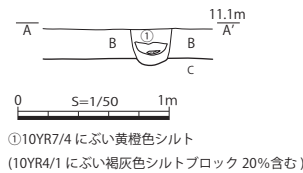
奈良時代の掘立柱列SA11515~11517は、第39次調査のSB2240や第198-12次調査のSA11406と近い向きのものであるが、これらの遺構との対応関係は明確ではない (第3・5図)。SA11515とSA11517は柱間3間、SA11516は柱間2間の柱列を確認した。円形の柱掘方で、土層断面で柱痕跡が確認できる。SA11515が延長6.3m、柱間1.8~2.4m、柱掘方



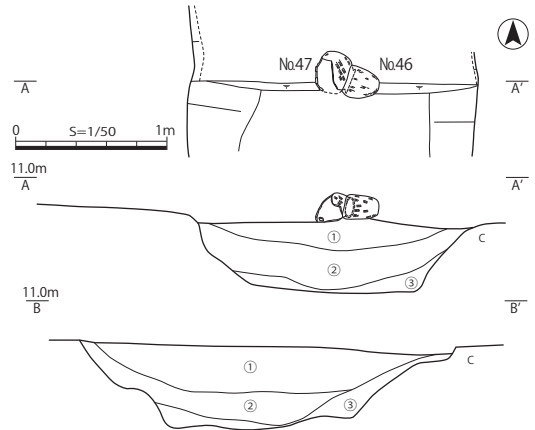
①～⑦・C層 調査区土層図と対応
SI5469



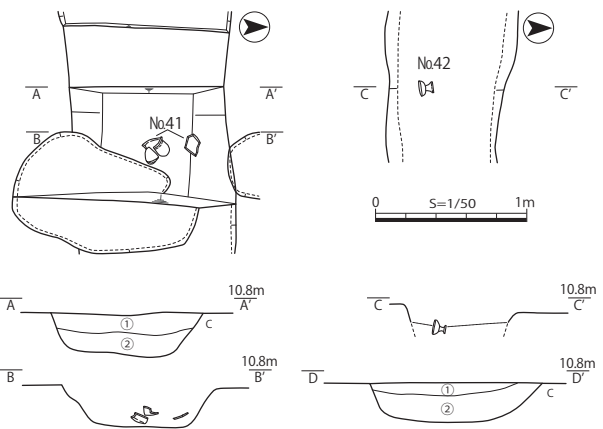
SP11523



①10YR7/4 にふい黄橙色シルト
(10YR4/1 にふい褐色シルトブロック 20%含む)

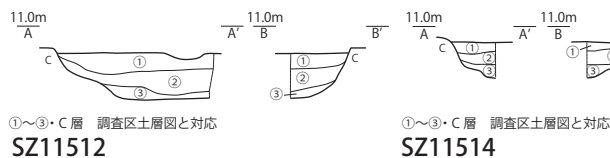


①～③・C層 調査区土層図と対応
SZ11404



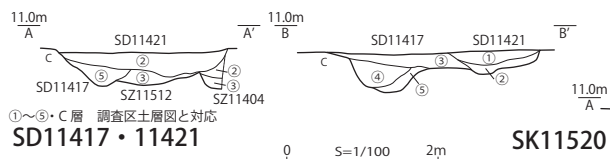
①10YR4/1 褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 5%含む)
②10YR4/1 褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 20%含む)
SZ11405

SI5469、SP11523、SZ11404・11405 平面図・土層図・立面図 (セクションのアルファベットは遺構平面図と対応、Noは遺物実測図と対応)



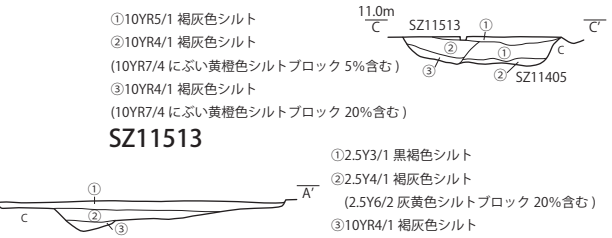
①～③・C層 調査区土層図と対応
SZ11512

①～③・C層 調査区土層図と対応
SZ11514



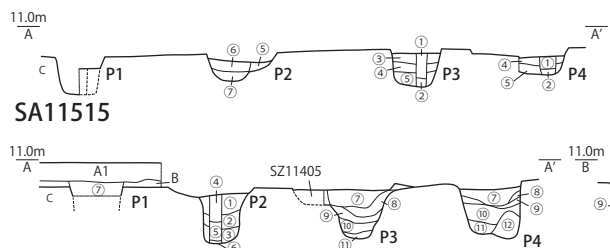
①～⑤・C層 調査区土層図と対応
SD11417・11421

SK11520



SZ11513

①10YR5/1 褐色シルト
②10YR4/1 褐色シルト
(10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 5%含む)
③10YR4/1 褐色シルト
(10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 20%含む)
④10YR3/1 黒褐色シルト
⑤2.5Y3/1 黒褐色シルト
⑥2.5Y4/1 褐色シルト
(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)
⑦10YR4/1 褐色シルト



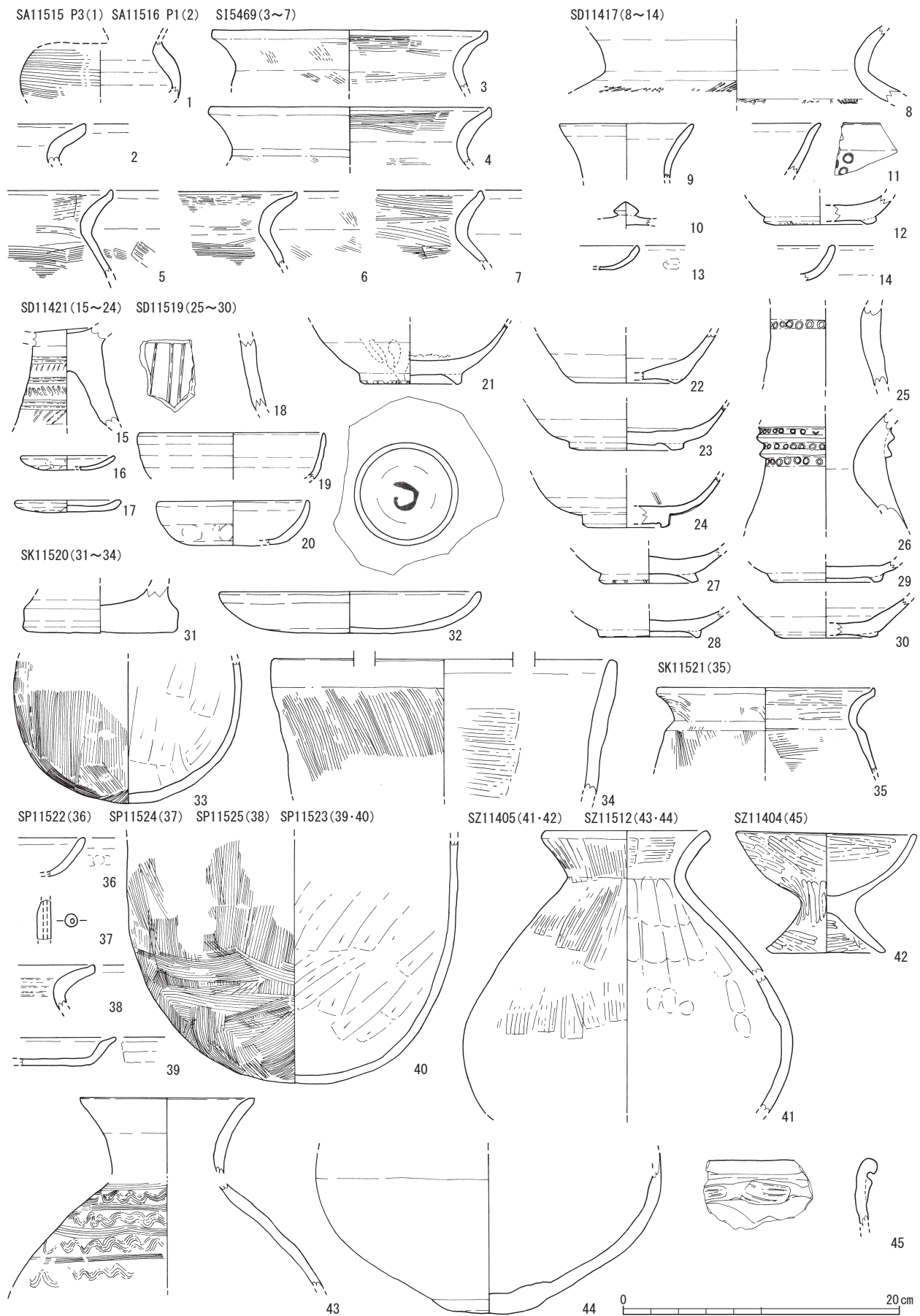
SA11515

①10YR4/1 褐色シルト：柱掘方埋土
②10YR4/1 褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色シルトブロック 5%含む)：柱掘方埋土
③10YR3/1 黒褐色シルト (10YR7/3 にふい黄橙色シルトブロック 5%含む)：柱掘方埋土

④2.5Y4/2 灰黄褐色シルト：柱痕埋土
⑤10YR3/2 灰黄褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 5%含む)：柱痕埋土
⑥10YR3/1 黒褐色シルト：柱掘方埋土
⑦10YR4/1 褐色シルト：柱掘方埋土
⑧10YR4/1 褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 10%含む)：柱掘方埋土
⑨10YR3/1 黒褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 10%含む)：柱掘方埋土
⑩10YR3/1 黒褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色シルトブロック 10%含む)：柱痕跡埋土
⑪10YR3/2 黒褐色シルト：柱痕跡埋土
⑫10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR7/3 にふい黄橙色シルトブロック 5%含む)：柱痕跡埋土
⑬2.5Y5/1 灰黄色シルト：柱掘取埋土
⑭10YR7/4 にふい黄橙色シルト：柱掘取埋土
⑮10YR5/1 褐色シルト：柱掘取埋土
⑯10YR3/1 黒褐色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 10%含む)：柱掘取埋土
⑰10YR3/1 黒褐色シルト：柱掘取埋土
⑱2.5Y5/2 灰黄色シルト (10YR7/4 にふい黄橙色シルトブロック 10%含む)：柱掘方埋土

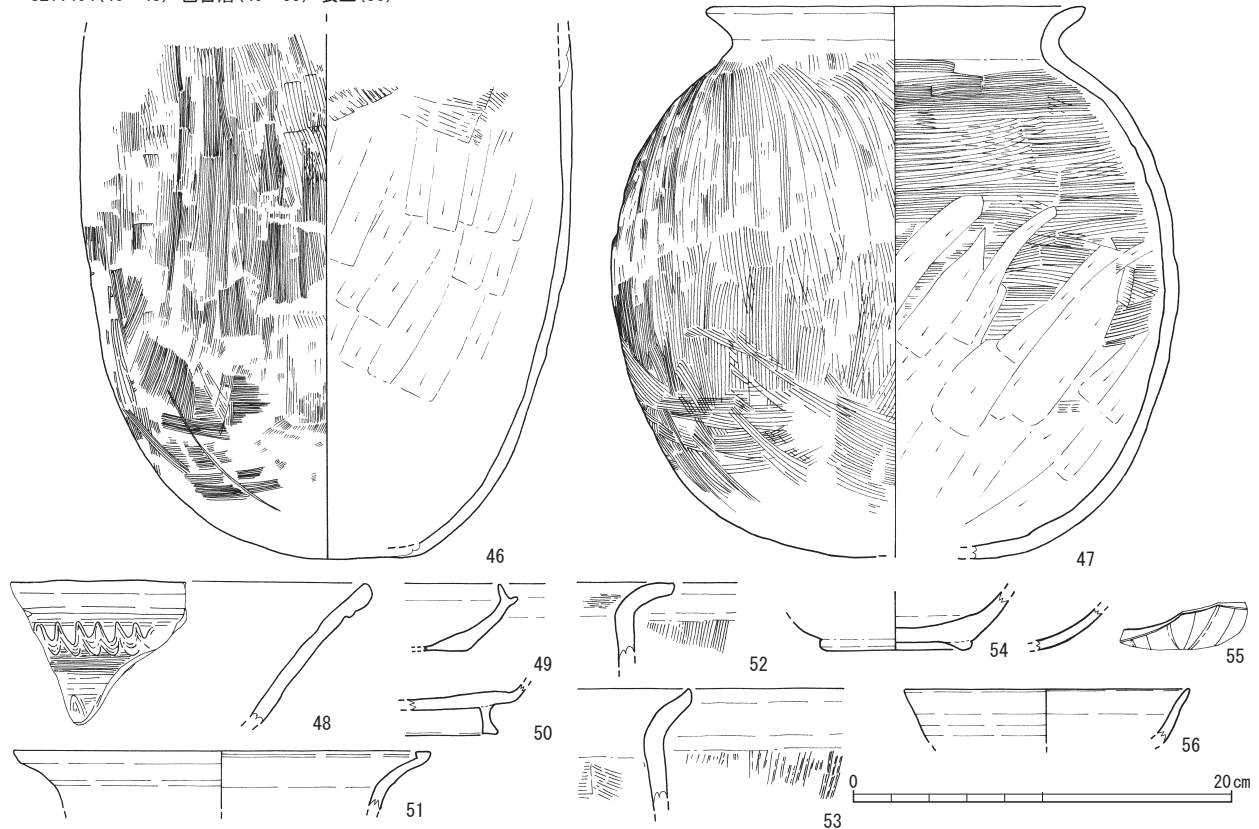
SA11517

SA11515・11517、SD11417・11421、SK11520、SZ11512～11514 土層図 (セクションのアルファベットは遺構平面図と対応)



第6図 第202-1次調査 遺物実測図① (1/4)

SZ11404(46~48) 包含層(49~55) 表土(56)



第7図 第202-1次調査 遺物実測図② (1/4)

は径0.6m、検出面からの深さは0.3~0.5mである。SA11517は延長5.4m、柱間1.8mのもので、柱掘方が不整形な円形で径0.4~0.6m、検出面からの深さは0.7mである。土層断面から柱痕跡や柱抜取痕跡が確認できる。

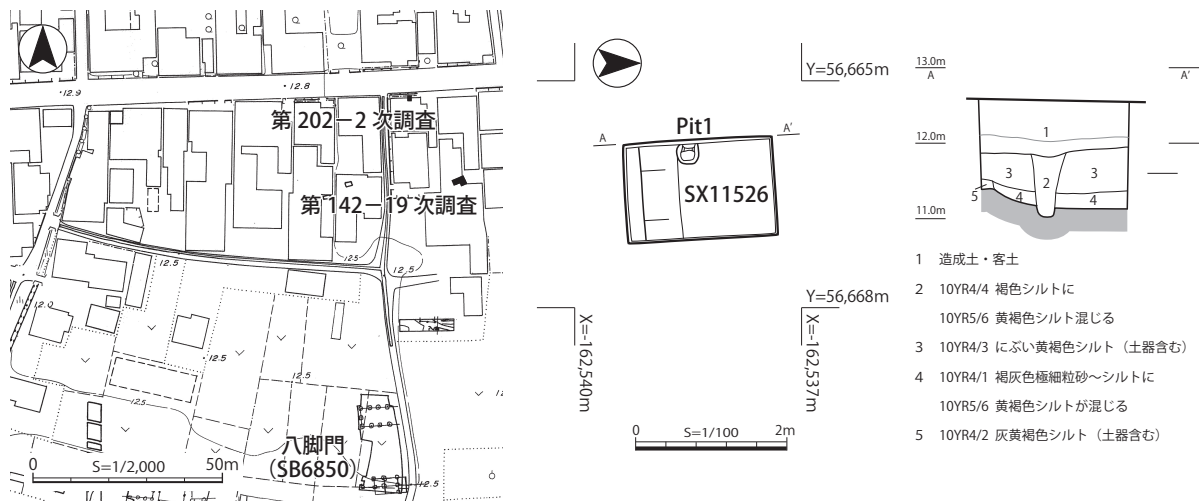
奈良時代のSP11523は、径約0.26mの小穴で、底部には土師器の甕を据えている(第3・5図)。甕(第6図No.40)の中からは土師器の皿(第6図No.39)が出土しており、皿を蓋代わりに使用していた可能性がある。

鎌倉時代の溝SD11417・11421は、溝2条が並行しており、土層断面よりSD11417が埋没後に、SD11421が再度掘削されていると判断する(第3~5図)。出土遺物には、鎌倉時代の土師器皿や陶器椀、青磁碗のほか、弥生土器や古代の硯・土器類がある。

2 第202-2次調査(6AN13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉114-1 原因 住宅建築 調査期間 令和4年6月3日 調査面積 2.6㎡

調査概要 調査地は史跡中央南部に位置し、八脚門(SB6850)の公園整備地から北へ100m地点の県道428号(伊勢街道)沿いにあたる。今回は住宅建築に伴う発掘調査であり、地下遺構の破壊が免れない浄化槽の設置地点で行った。調査区は浄化槽埋設坑とし、南北2m、東西1.3mを設けた(第8図)。調査地は地表面(標高12.6m付近)から深さ1.2~1.5m(標高11.1~11.4m)で地山面に至る。地層は上から①造成土・客土(土層No.1)、②にぶい黄褐色シルト(遺構埋土か・土器を含む、土層No.3)、③灰黄褐色シルト(遺構埋土か、土層No.5)、④地山である。②層上面でピット、③層上面で落ち込み状遺構(東西溝か)を確認した。地層の観察により、②・③層と落ち込み状遺構の埋土は灰黄褐色系の同種の碎屑物で構成されることから、おそらく重複する溝あるいは落ち込み状遺構(SX11526)の埋土と推測される。調査区より南東約25mに位置する第142-19次調査では、標高11.7m前後で④地山を確認している。当該地点では標高11.1~11.4mの深い位置で地山を認めるが、これは落ち込み状遺構の存在に由来する。



第8図 第202-2次調査区位置図 (1/2,000)・遺構平面図 (1/100)・調査区土層図 (1/100)

調査の結果、標高11.9~12.0mの②層上面（地表面より深さ約0.7m）で遺構検出が可能である点、②層以下は遺構埋土である点を確認した。また、SX11526が東西溝であるならば、方格街区の区画道路側溝の方向（あるいは伊勢街道）に沿うため、関連性が窺われる。遺物は②層中と落ち込み状遺構から土師器・須恵器・ロクロ土師器の小片が出土している。時期は平安時代後期頃に比定される。

3 第202-3次調査 (6AL12・L13)

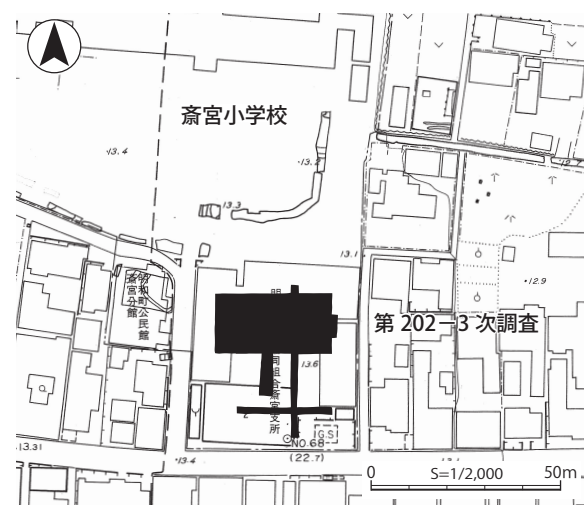
調査場所 多気郡明和町大字齋宮字牛葉
3403番1、3403番12、3405番5

原因 発掘調査

調査期間 令和4年10月3日～令和5年1月18日

調査面積 642.5㎡

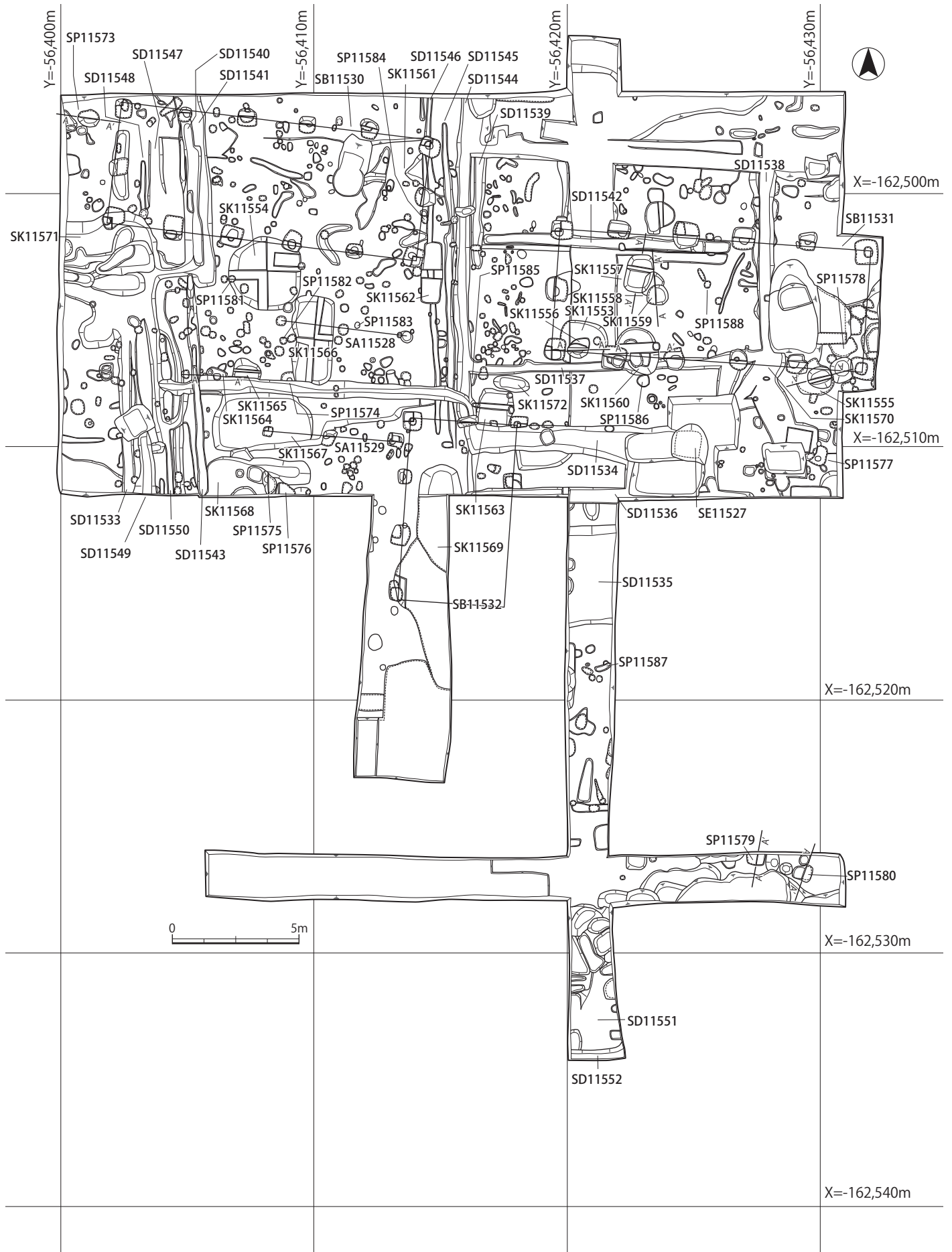
調査概要 調査地は史跡南部に位置し、北側隣接地には齋宮小学校、南側には伊勢街道が通過する。奈良時代末期～平安時代前期に整備された方格街区の外側にあり、方格街区から西側へ150m程の地点にある。当地は、新たに町が公有化した土地であり、将来的な整備を検討するため、事前に遺跡の詳細を確認する目的で発掘調査を実施した。周辺の調査状況は、当地北側の齋宮小学校で第15次調査等、伊勢街道沿いの宅地内で第185-11次調査等を実施している。また、近代以降の当地の変遷状況は、明治42年に齋宮村役場が当地へ移設、大正14年に役場新庁舎建設、昭和36年に齋宮農業協同組合の店舗建設が行われた。



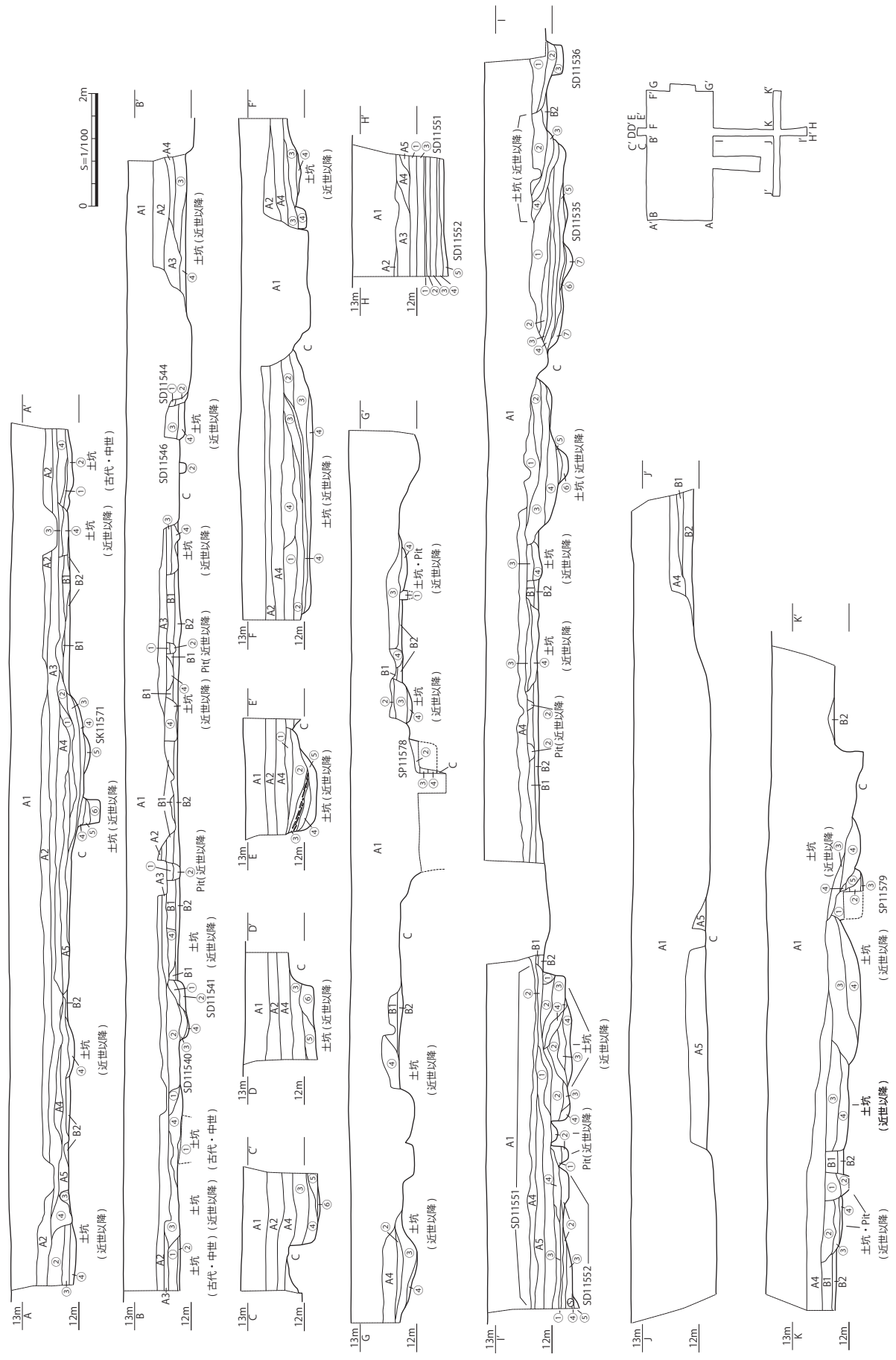
第9図 第202-3次調査区位置図 (1/2,000)

発掘調査では建物基礎、埋設管といった近現代に設置された構造物や造成土の除去、近世以降の整地層等を掘削のうえ、地山直上で遺構の検出を行った。遺物包含層については確認できるものの、攪乱や近世以降の遺構等の影響により、調査区全体として残りが悪い状況である。地表面から地山面までの深さは約1~1.2m（標高約12.2~12.3m）であり、建物基礎による攪乱範囲は最大約1.5m（標高11.7m）まで及ぶ。調査開始段階には、南北方向のトレンチ（40×2m）1箇所と東西方向のトレンチ（30×2m・1箇所、25×2m・2箇所）3箇所を設定し調査を進めていたが、調査地北側にかけて大型の掘立柱列が確認されたため、調査区を拡張し遺構の広がり把握することに努めた。

遺構は、奈良時代後期～平安時代前期のものと推定される掘立柱建物3棟、柱列2条の他、奈良時代後期～鎌倉時



第10図 第202-3次調査 遺構平面図 (1/200)



第11图 第202-3次調査 調査区土層図 (1/100)

調査区土層図注記

【基本層序】

- A1(現代客土)
 A2～A5(近代客土)
 B1(包含層) 2.5Y3/1 黒褐色シルト
 B2(包含層) 2.5Y7/1 灰白色シルト
 (2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック含む)
 C(地山) 2.5Y8/2 灰白色シルト

土坑(古代・中世)

- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト
 ②2.5Y4/1 黄灰色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)

土坑(近世以降)

- ①2.5Y4/1 黄灰色シルト(5 cm程の礫を多く含む)
 ②2.5Y4/1 黄灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ③2.5Y5/1 黄灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)
 ④2.5Y3/1 黒褐色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ⑤2.5Y4/1 黄灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ⑥2.5Y2/1 黒色シルト

Pit(近世以降)

- ①10YR5/1 褐灰色シルト
 ②10YR4/1 褐灰色シルト(10YR5/1 褐灰色シルトブロック 10%含む)

SK11571

- ①10YR4/1 褐灰色シルト(10YR6/2 灰黄褐色シルトブロック 10%含む)
 ②10YR6/1 褐灰色シルト(10YR4/1 褐灰色シルトブロック 5%含む)
 ③10YR6/2 灰黄褐色シルト
 ④10YR7/1 灰白色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ⑤10YR7/1 灰白色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)

SD11540

- ①10YR6/1 褐灰色シルト
 ②10YR5/2 灰黄褐色シルト
 ③10YR6/3 にぶい黄褐色シルト
 ④10YR5/2 灰黄褐色シルト

SD11541・SD11544

- ①10YR5/1 褐灰色シルト
 ②10YR4/1 褐灰色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)

SD11551

- ①2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
 ②2.5Y5/3 黄褐色シルト
 ③2.5Y5/2 暗灰黄色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)
 ④2.5Y3/1 黒褐色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)

SD11552

- ①2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
 ②2.5Y4/1 黄灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ③2.5Y4/1 黄灰色シルト
 ④2.5Y3/1 黒褐色シルト(5 cm程の礫を多く含む)

SD11555

- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)
 ②2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
 ③2.5Y5/3 黄褐色シルト
 ④2.5Y6/2 灰黄色シルト(2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック 20%含む)
 ⑤2.5Y5/1 黄灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)
 ⑥2.5Y6/2 灰黄色シルト(2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック 10%含む)
 ⑦2.5Y5/1 黄灰色シルト

SD11536

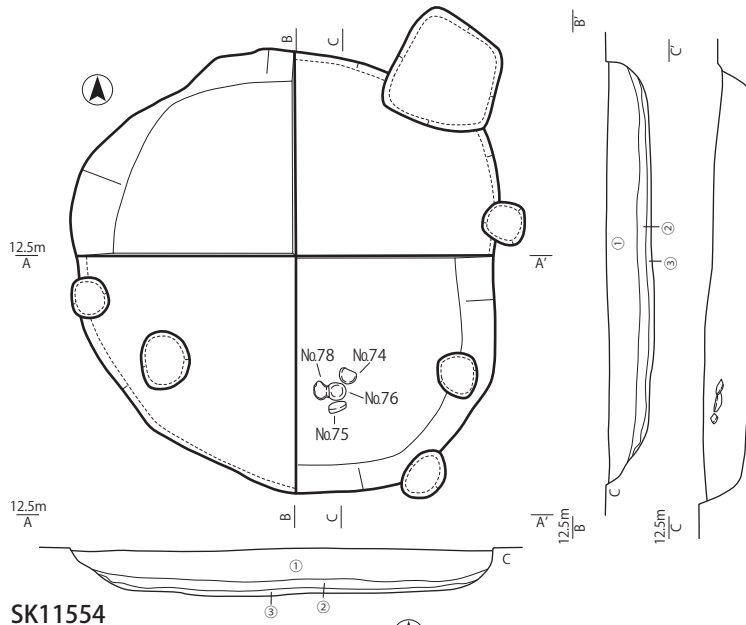
- ①10YR4/1 褐灰色シルト(10YR6/1 褐灰色シルトブロック 10%含む)
 ②10YR5/1 褐灰色シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)
 ③10YR4/1 褐灰色シルト

SP11573・SP11578

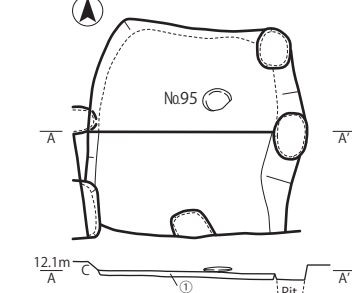
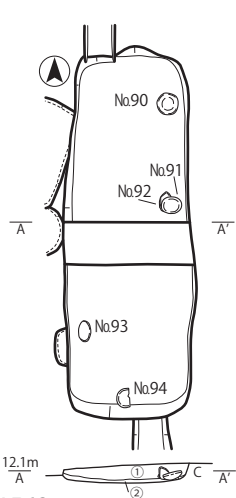
- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト
 ②2.5Y4/1 黄灰色シルト
 (2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック 10%含む)
 ③2.5Y4/1 黄灰色シルト
 (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)
 ④2.5Y7/2 灰黄色シルト
 (2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック 5%含む)

SP11579

- ①2.5Y5/1 黄灰色シルト
 (2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)：柱掘方埋土
 ②2.5Y6/2 灰黄色シルト
 (2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック 5%含む)：柱掘方埋土
 ③2.5Y3/1 黒褐色シルト
 (2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック 5%含む)：柱掘方埋土
 ④2.5Y4/1 黄灰色シルト：柱抜取埋土
 ⑤2.5Y4/1 黄灰色シルト
 (2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 20%含む)：柱抜取埋土



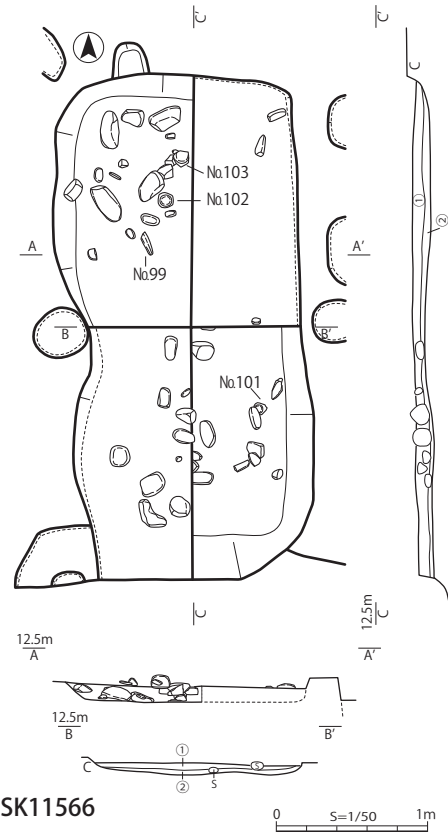
SK11554



SK11563

SK11554

- ①2.5Y2/1 黒色シルト(土器, 礫を含む)
 ②2.5Y2/1 黒色シルト
 ③2.5Y3/1 黒褐色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む)



SK11566

SK11562

- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト
 ②2.5Y7/2 灰黄色シルト(2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック 5%)

SK11563

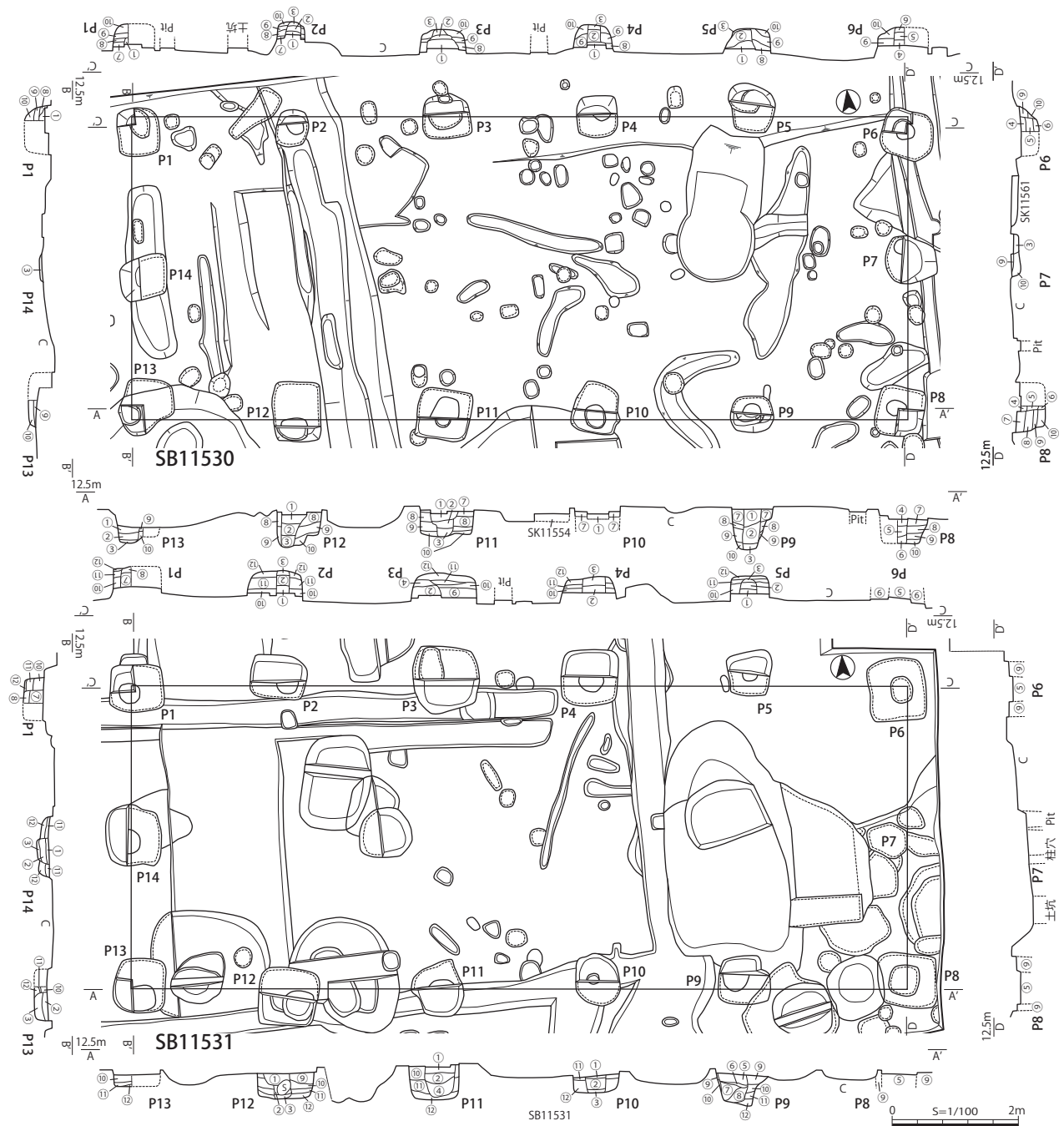
- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト
 ②2.5Y7/2 灰黄色シルト(2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック 5%含む)

SK11566

- ①2.5Y4/1 黄灰色シルト(10 cm程の礫を多く含む)
 ②2.5Y4/1 黄灰色シルト(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む)

SK11562

SK11554・11562・11563・11566 平面図・土層図・立面図(セクションのアルファベットは遺構平面図と対応, No.は遺物実測図と対応)



SB11530

- ①2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック 5%含む): 柱抜取埋土
- ②2.5Y3/1 黒褐色シルト: 柱抜取埋土
- ③2.5Y3/1 黒褐色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む): 柱抜取埋土
- ④2.5Y4/1 黄灰色シルト: 柱痕跡埋土
- ⑤2.5Y3/1 黒褐色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む): 柱痕跡埋土
- ⑥2.5Y3/1 黒褐色シルト: 柱痕跡埋土
- ⑦2.5Y3/1 黒褐色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 20%含む): 柱掘方埋土
- ⑧2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 20%含む): 柱掘方埋土
- ⑨2.5Y7/2 灰黄シルト (2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック 10%含む): 柱掘方埋土
- ⑩2.5Y7/2 灰黄シルト (2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック 5%含む): 柱掘方埋土

SB11531

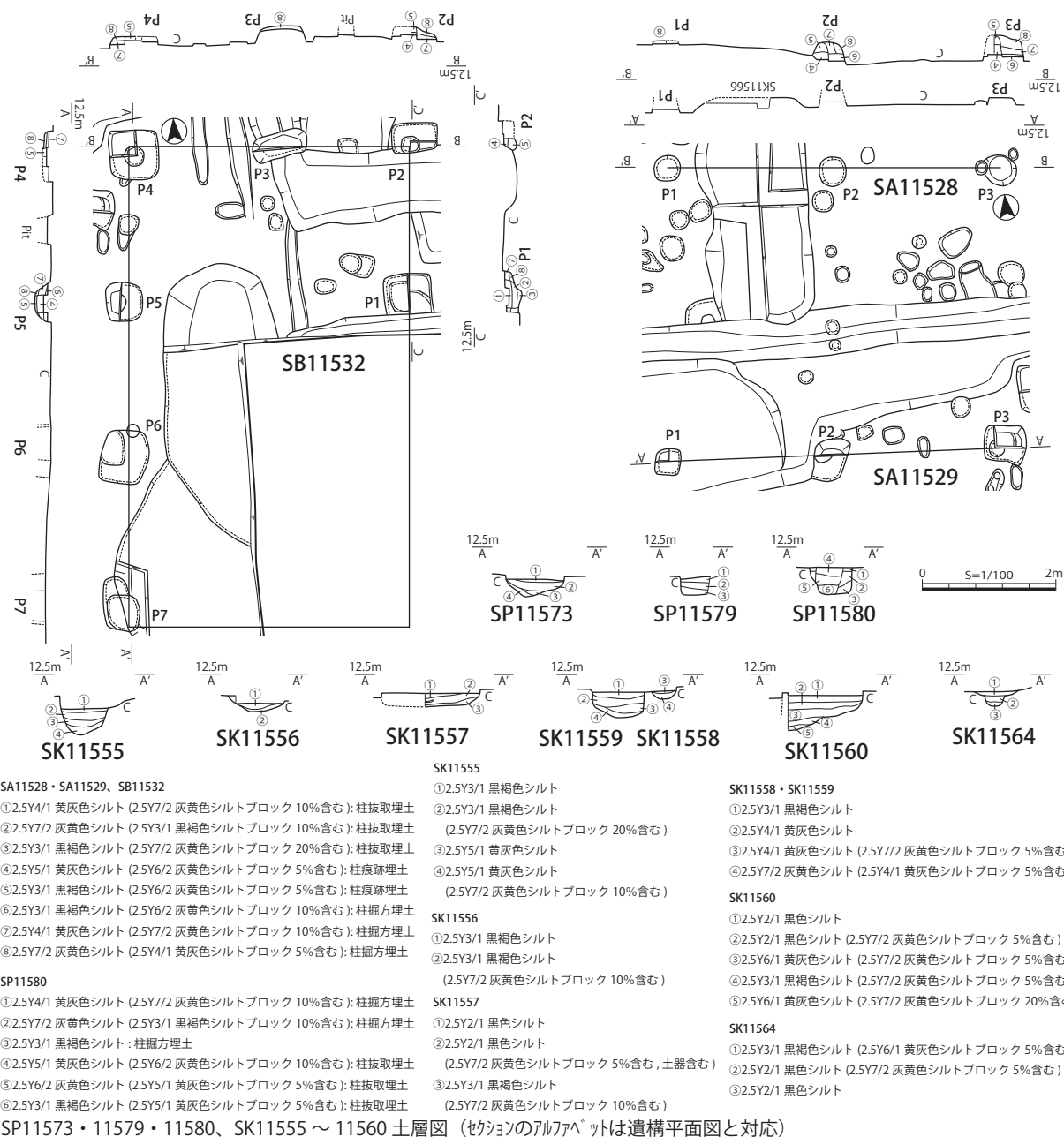
- ①2.5Y3/1 黒褐色シルト: 柱抜取埋土
- ②2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む): 柱抜取埋土
- ③2.5Y3/1 黒褐色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む): 柱抜取埋土
- ④2.5Y7/2 灰黄シルト (2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック 20%含む): 柱抜取埋土
- ⑤2.5Y7/2 灰黄シルト (2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック 10%含む): 柱抜取埋土
- ⑥2.5Y5/1 黄灰色シルト: 柱抜取埋土
- ⑦2.5Y5/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む): 柱抜取埋土
- ⑧2.5Y5/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 20%含む): 柱抜取埋土
- ⑨2.5Y3/1 黒褐色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 5%含む): 柱掘方埋土
- ⑩2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 20%含む): 柱掘方埋土
- ⑪2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 10%含む): 柱掘方埋土
- ⑫2.5Y7/2 灰黄シルト (2.5Y3/1 黒褐色シルトブロック 10%含む): 柱掘方埋土

第13図 第202-3次調査 個別遺構図② (1/100)

代に属する土坑や小穴等を確認することができた。また、調査区全体で江戸時代(幕末)~明治時代にかけての地割溝や土坑・井戸等が広がっており、これらを完掘したうえで奈良時代~鎌倉時代の遺構の検出を行った。

奈良時代後期の遺構は、土坑SK11553・11554・11560がある(第10図)。これらの土坑は掘立柱建物SB11530の柱穴P10、SB11531の柱穴P12・13と重複しているが、平面や土層断面の観察から土坑が先行していると判断できる。

SK11554は、平面形が円形の土坑で、規模は直径2.8m・深さ0.3mのものである。土坑の南側では、埋土上層(土層



第14図 第202-3次調査 個別遺構図③ (1/100)

No.1) から斎宮 I-3期(中)～I-3期(新)の土師器杯・甕がまとめて出土している(第12図・第15図No.74～80)。埋土下層(土層No.2・3)からの出土遺物は確認できなかった。

奈良時代後期～平安時代前期の遺構には、掘立柱列や掘立柱建物等がある(第10・13・14図)。大型の掘立柱建物SB11530・SB11531は、桁行5間・梁行2間の東西棟の側柱建物である。建物規模は、ともに東西約12.3m(柱間約2.4m)・南北約4.8m(柱間約2.4m)である。これらの柱掘方は、平面形が方形で、規模は0.7～0.8m四方である。桁行の柱穴は、深さが0.5m以上(底部の標高11.6～11.8m)を測るが、梁行の中央柱穴は、深さが約0.1～0.2m(底部の標高12.0～12.1m)以上と、他の柱穴と比較して浅くなる。平面検出及び半截掘削による埋土の観察から、SB11530は柱穴P6・8に柱痕跡が確認できるが、この他は柱抜取跡がみられる。SB11531の柱穴は、全てに柱抜取跡が確認できる。

SB11532は、桁行3間・梁行2間の南北棟の側柱建物である。建物規模は、南北約12.3m(柱間約2.1m)・南北約4.8m(柱間約2.1m)である。柱掘方は平面形が方形で、規模は0.6～0.7m四方となり、深さは0.2～0.3m以上(底部の標高11.7～11.9m)となる。平面検出及び半截掘削による埋土の観察から、柱穴P1・6・7に柱抜取穴、この他の

柱穴には柱痕跡がみられる。掘立柱建物の建物軸の方角は、SB11530が真北で東に約7度、SB11531・SB11532は真北で東に約3度振る。

これらの建物の時期は、SK11553・11554・11560との重複関係や柱穴出土遺物から推定すると、奈良時代後半から平安時代前期頃（8世紀後半から9世紀前半頃）のものと同判断する。ただし、SB11530が先行し、その後SB11531・SB11532に建替えられたと想定できる。この他には、SB11530の南側では、掘立柱列SA11528・SA11529や調査区東側の柱穴SP11577・11579・11580は、上記の掘立柱建物と同規模の柱穴であり、周辺に建物群等の存在が想定できる。

平安時代中期の遺構には、土坑SK11562・11563等がある（第10・12図）。SK11562は、平面形が長方形となり、規模は長さ2.4m・幅0.85m・深さ0.12mを測る。土坑内からは、斎宮Ⅱ-4期の土師器杯が出土している（第12図・第16図No.90～94）。SK11562は、掘立柱建物SB11530の柱穴P8の一部を削平しており、建物撤去時期を検討できる遺構である。SK11563は、南側が削平され全体の形状は不明であるが、残存する範囲は平面形が方形で、規模が1.4m四方・深さ0.04mを測る。土坑内からは、斎宮Ⅱ-3期の土師器皿（第16図No.95）が出土している。SK11563は、掘立柱建物SB11532の柱穴P3の一部を削平しており、建物撤去時期を検討できる遺構である。

平安時代後期の遺構には土坑SK11555があり、平面は不整形な円形で直径0.9m・深さ0.6mを測る（第10・14図）。出土遺物には、斎宮Ⅲ-1期の土師器皿・杯・椀、ロクロ土師器杯等がある（第14図・第15図No.65～71）。

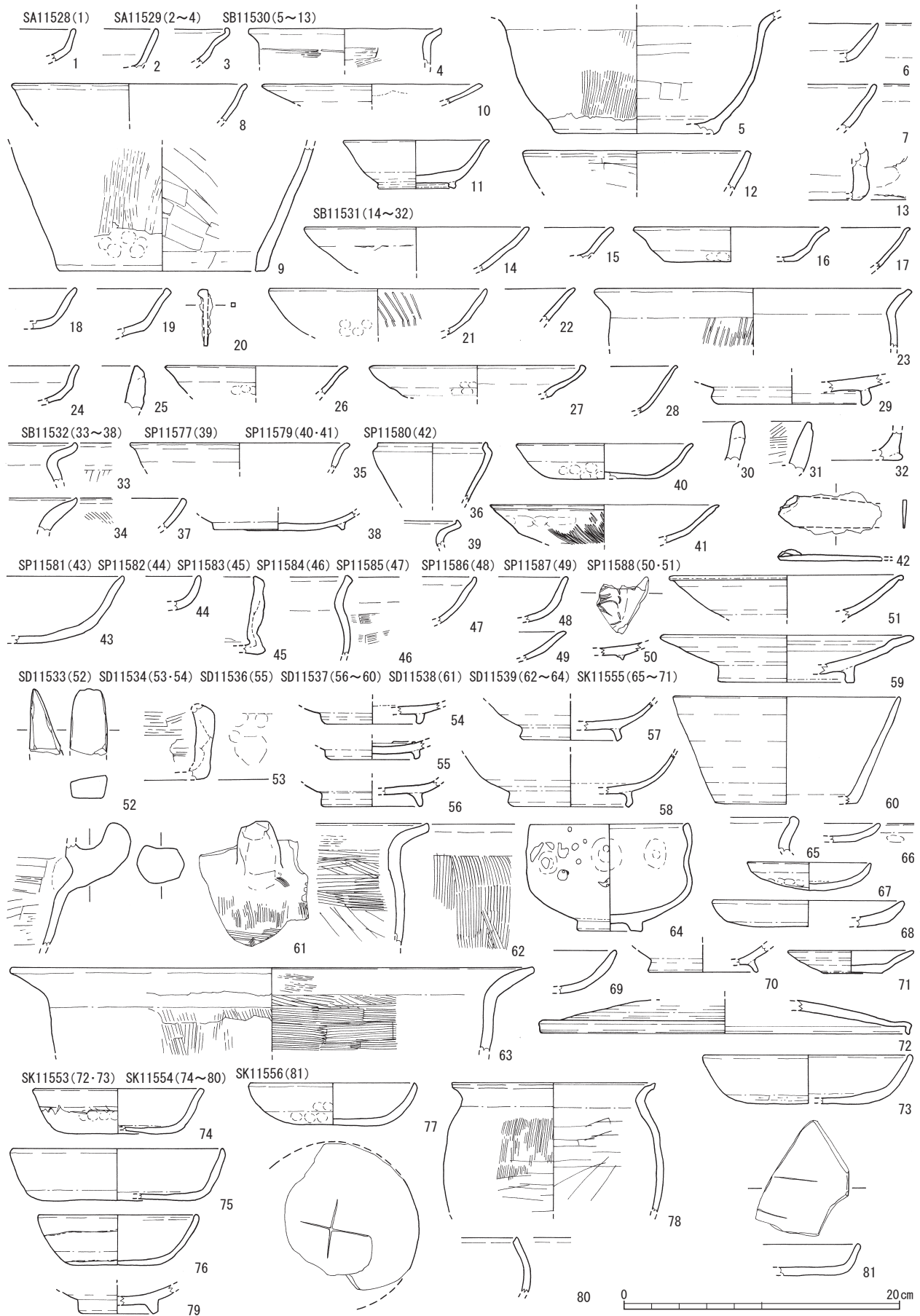
鎌倉時代に属する遺構には土坑11566等がある（第10・12図）。土坑SK11566は、平面は長方形で長さ3.3m・幅1.4m・深さ0.1mを測る。土坑内では、全体から0.1～0.2m大の礫が検出されており、土層断面の観察から土坑埋没時に廃棄されたものと判断でき、同一層からは土師器鍋や山茶椀、砥石が出土している（第16図No.99～105）。

この他には、江戸時代（18世紀後葉以降）～明治時代にかけての溝や土坑、井戸等が調査区全体で確認できる（第10図）。SD11533～11550は、地割溝とみられ、東西・南北方向の方位に沿って施工されている。SD11552は、伊勢街道と並行する溝で、道路側溝の可能性もある。SK11571からは、土師器の焙烙・羽釜・茶釜、陶磁器の椀等が多量に出土しているが、その一部を報告している。

出土遺物には、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、中世陶器、近世陶磁器、石製品、金属製品等がある（第15～16図）。SB11530出土遺物（第15図No.5～13）には、土師器杯・甕・鍋・甑、灰釉陶器皿・椀、志摩式製塩土器がある。灰釉陶器椀は、猿投窯編年K-14号窯式のもので、柱抜取埋土から出土しており、建物撤去の時期は9世紀前葉とみられる。SB11531出土遺物（第15図No.14～32）には、土師器皿・杯・甕、灰釉陶器椀、志摩式製塩土器、鉄釘等が出土している。土師器杯（No.21）は内面に斜方向の暗文がみられ、斎宮Ⅱ-2期のもので、柱抜取埋土から出土しており、建物撤去の時期は9世紀前葉とみられる。SB11532出土遺物（第15図No.33～38）には、土師器杯・甕、黒色土器椀があり、黒色土器椀（No.38）は内面のみ黒色化したもので、柱掘方埋土から出土しており、斎宮Ⅱ-2期～Ⅱ-3期（9世紀前葉～後葉）のものである。

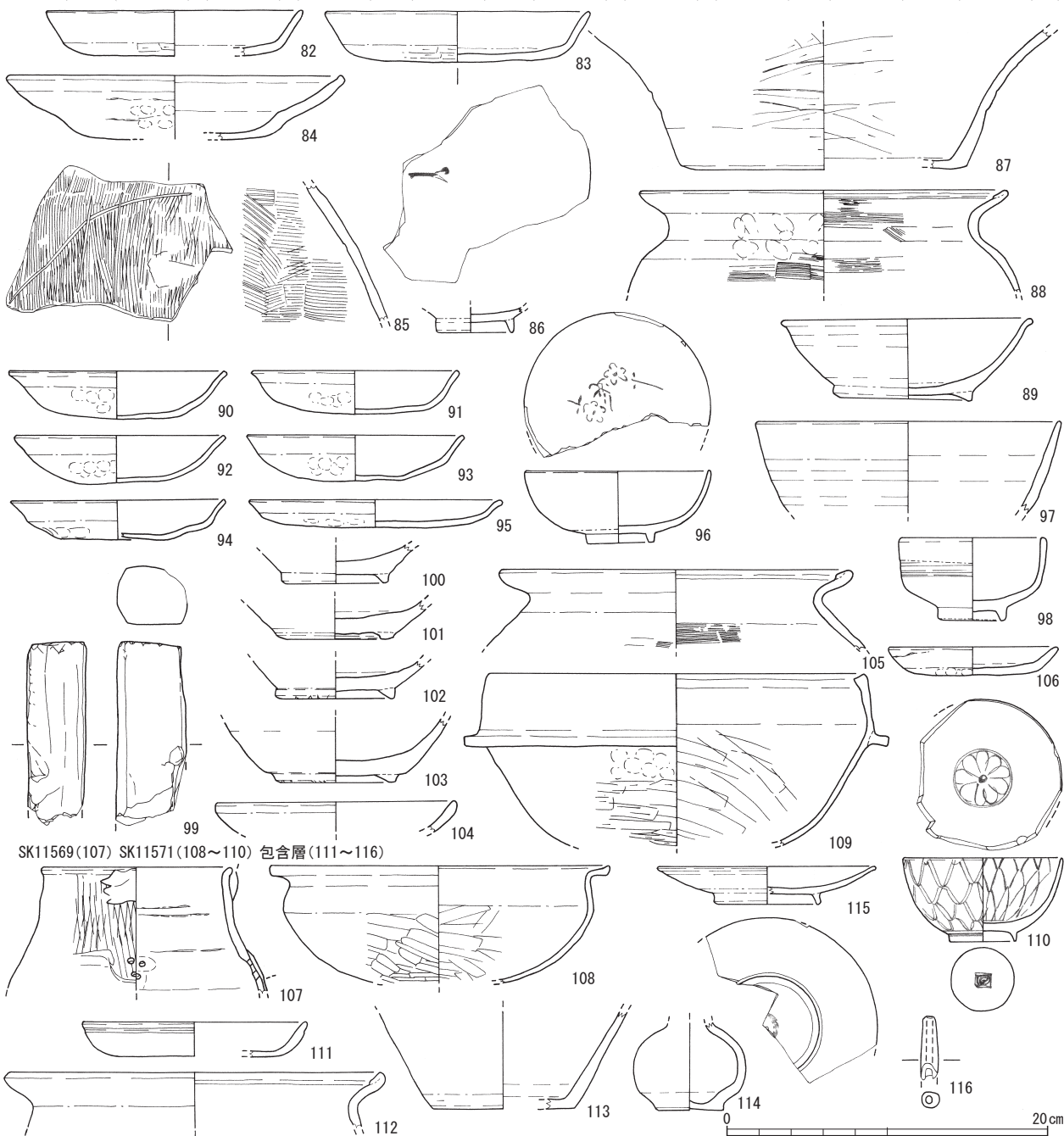
柱穴SP11580出土遺物には、鉄製工具（第15図No.42）があり、柄部の端を折り返している。SP11588出土遺物（第15図No.50・51）には、緑釉陶器椀と灰釉陶器皿がある。緑釉陶器椀の内面には陰刻花文がみられる。

SK11554出土遺物（第15図No.74～80）には、土師器杯・甕、須恵器鉢等があり、No.74～76・78は上層からの出土である。No.77の土師器杯の底部外面には、十字形の線刻がみられる。これらは斎宮Ⅰ-3期（中）～Ⅰ-3期（新）の8世紀中葉～後葉にかけてのもの。SK11556の土師器杯（第15図No.81）の内面には、2条の線刻がある。SK11557の土師器杯（第16図No.83）の底部外面には墨書がある。SK11562の土師器杯（第16図No.90～94）は、土坑底部から出土したもので、斎宮Ⅱ-4期のものである。SK11563の土師器杯（第16図No.95）は、土坑底部から出土したもので斎宮Ⅱ-3期のものである。SK11564の土師器盤（第16図No.87）は、体部外内面にヘラケズリを施しており、色調が赤褐色のものである。SK11566の出土遺物には、棒状の砥石や陶器椀（第16図No.99～105）があり、これらは土坑底部から出土したものである。SK11569の土師器茶釜（第16図No.107）は、体部に径3mm程の穿孔が3箇所あり、口縁部には粘土の剥離痕がみられる。



第15図 第202-3次調査 遺物実測図① (1/4)

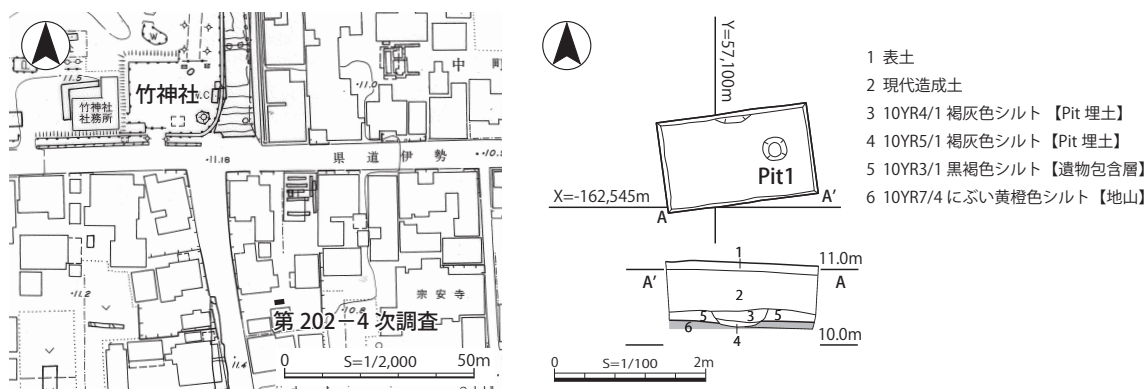
SK11557(82~85) SK11572(86) SK11564(87) SK11565(88-89) SK11562(90~94) SK11563(95) SK11567(96) SK11568(97-98) SK11566(99~105) SK11570(106)



第16図 第202-3次調査 遺物実測図② (1/4)

4 第202-4次調査 (6AR13)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字中西581番1、582番1 **原因** 住宅建築 **調査期間** 令和4年11月7日 **調査面積** 2.4㎡ **調査概要** 調査地は史跡南東部に位置し、竹神社から南東へ85m地点の県道428号(伊勢街道)沿いにあたる。今回は住宅建替に伴う発掘調査であり、地下遺構の破壊が免れない浄化槽の設置地点で行った。調査区は浄化槽埋設坑とし、南北2m、東西1.2mを設けた(第17図)。調査地は地表面(標高11.4m付近)から、深さ約0.7m(標高10.3m)で地山面に至る。地層は上から1表土、2現代造成土、3黒褐色シルト(遺物包含層、土層No.5)、4地山である。調査では、地山面で径約0.3m、深さ約0.26mのPit1を確認した。また、調査区壁の土層観察及び平面検出により、遺物包含層上面から掘り込む土坑状の遺構を確認することができたが、規模等の詳細は不明である。遺物は、Pit1から土師器の小片が出土しているが、器種や時期の詳細は不明である。



第17図 第202-4次調査区位置図 (1/2,000)・遺構平面図 (1/100)・調査区土層図 (1/100)

5 第202-5次調査 (6A7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字塚山
3339番1、3345番1

原因 資材置場設置

調査期間 令和5年1月19日～3月22日

調査面積 487.1m²

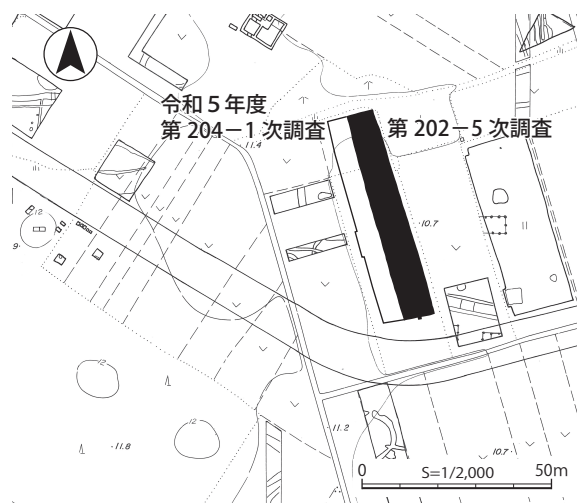
調査概要 資材置場設置に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡北部の畑地で、斎宮歴史博物館から東に約300mの地点にあり、近隣には塚山古墳群が広がる。既存の調査状況は、申請地東側で第31-5次調査、西側で第106-6次調査等がある。また、同申請地内では、令和5年度に第204-1次調査を実施し、当調査区の西側を調査している。

発掘調査では、古代以降の遺構の大半が、遺物包含層上面から掘り込んでいることが確認できたが、遺構検出については遺物包含層上面で行うことが困難な状況であり、誤認を避けるため地山直上で行った。地表面から遺物包含層上面までの深さは約0.2～0.3m（標高約10.7～10.8m）、地山面までの深さは約0.4～0.5m（標高約10.5～10.6m）であり、調査区全体が平坦な地形となるが、近現代の耕作や樹木等の攪乱により、検出面には凹凸がみられる。

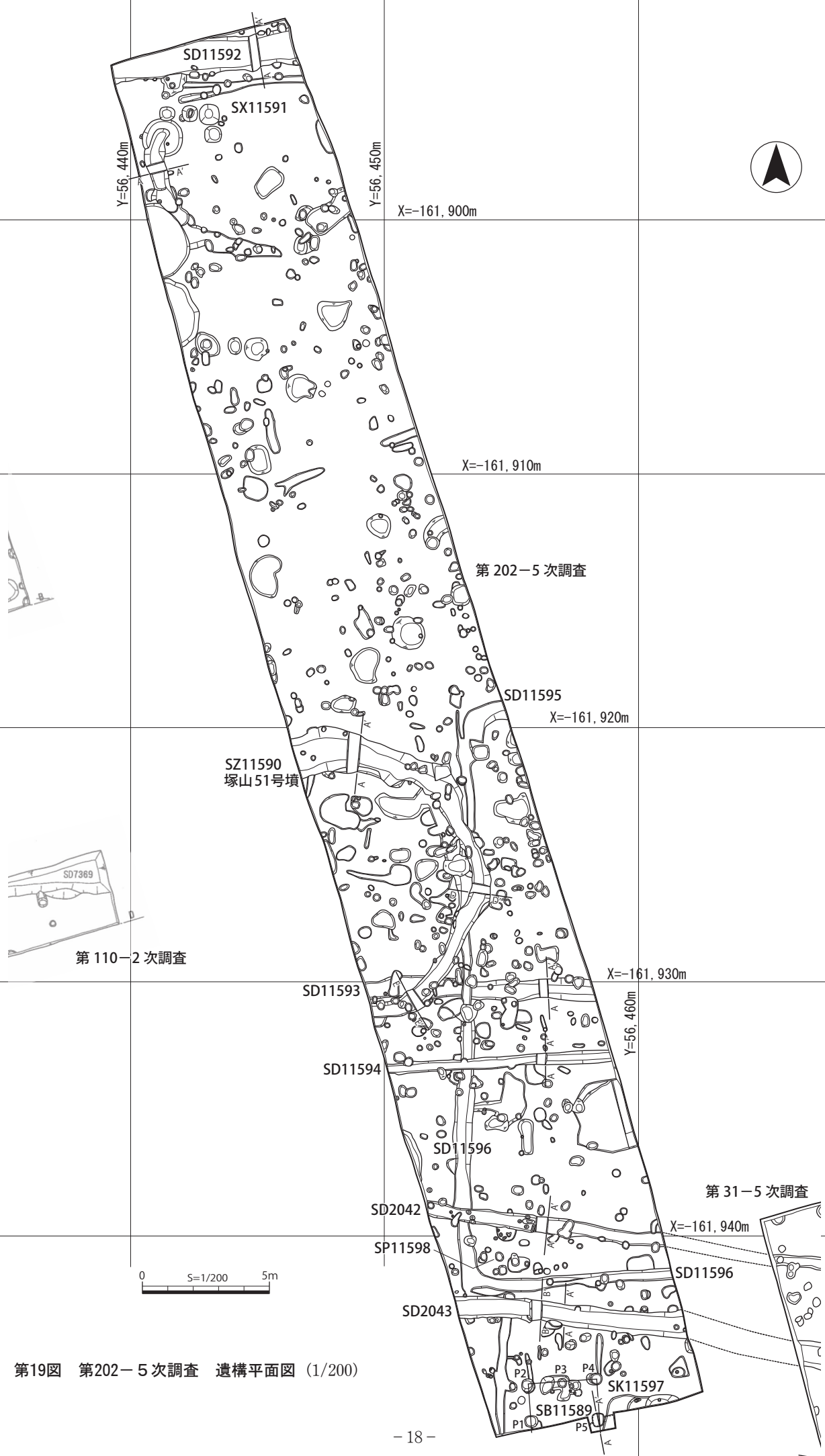
遺構は、古墳時代中～後期の円墳1基、奈良時代の掘立柱建物1基、溝3条、鎌倉時代の溝2条、江戸時代以降の土坑や溝等がある（第19図）。

古墳時代の円墳（SZ11590：塚山51号墳）は、埋葬施設は確認できず、周溝のみを検出した（第19・21図）。墳丘規模が径約9mで、周溝幅は約0.5～1.5m、深さは約0.4mである。周溝北側では、最終堆積層とみられる埋土上層（土層No.1）から、土師器杯・高杯・甕・鍋・甌、須恵器の杯・長頸壺・鉢がまとまって出土しており、少なくとも奈良時代には周溝が埋没したものと推定できる（第23図No.38～58）。須恵器長頸壺（第23図No.40）は、埋土上層から正立した状態で出土しており、溝の埋没時に据え置かれた可能性がある。古墳時代の遺物については、明確に時期決定できるものはない。また、調査区北端のSX11591は、円形に巡る深さ0.03～0.05m程の浅い溝であるが、出土遺物は近世以降の陶磁器等のみである。円墳の可能性もあるが、遺構の性格は不明である。

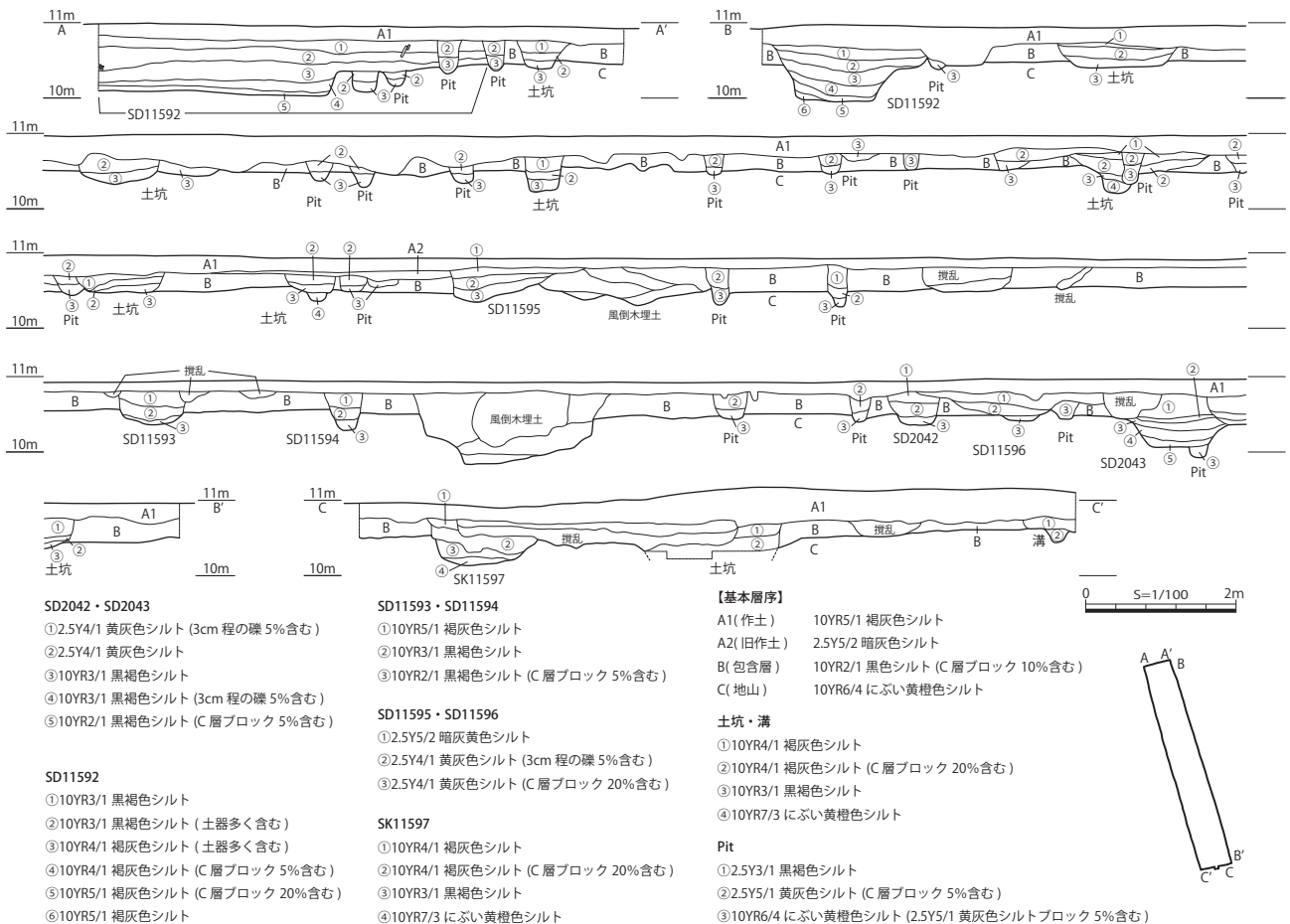
調査区南端では、奈良時代とみられる掘立柱建物を1棟確認できる（第19・21図）。SB11589は南北棟の建物と想定でき、建物北辺とみられる2間の柱列を検出した。建物軸の方位は、真北で西に5度振っているもので、建物規模は東西約2.8m（柱間約1.4m）、柱掘方は径約0.5mの円形となる。出土遺物には、土師器甕（第22図No.1）がある。



第18図 第202-5次調査区位置図 (1/2,000)



第19図 第202-5次調査 遺構平面図 (1/200)



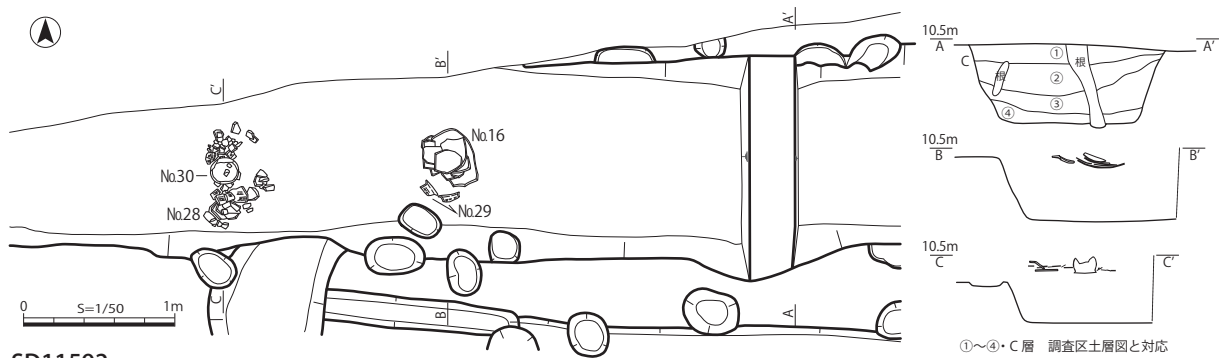
第20図 第202-5次調査 調査区土層図 (1/100)

奈良時代のSD11592は、調査区北端の幅約1.3m、深さ約0.5mの直線的な溝で、断面が箱堀状となる(第19・21図)。最終堆積層とみられる埋土上層(土層No.1)からは奈良時代前期の土師器杯・甕・甔、須恵器杯・甕・長頸壺等(第22図No.12~35)がまとめて出土している。溝SD2042・2043は、方位が真北で東に約5度振った溝で、2条が並行しており、溝心間の距離は約3.3mを測る(第19・21図)。SD2042は幅約0.6m、深さ約0.2m(溝底の標高10.4m)であるが、SD2043は幅約0.7m、深さ約0.4m(溝底の標高10.2m)となる。SD2043の埋土下層(土層No.2・3)からは、奈良時代の土師器杯・甕、須恵器杯・壺が出土している(第22図No.4~8)。

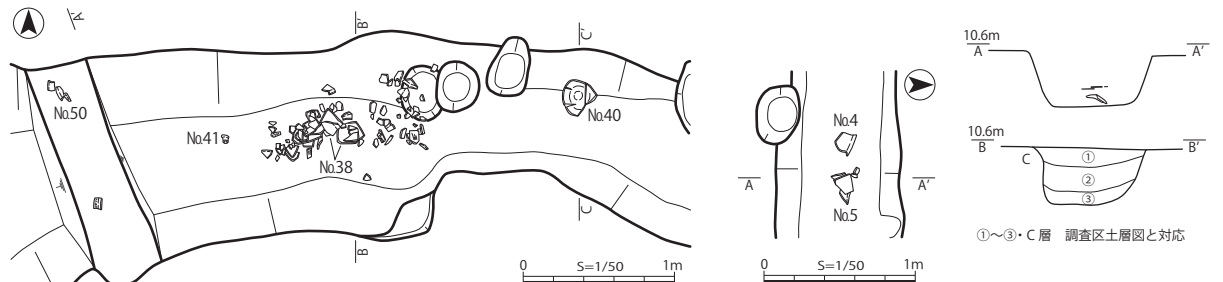
鎌倉時代の溝SD11593・11594は、方位が真北で西に約3度振った溝で、2条が並行しており、溝心間の距離は約2.7mを測る(第19・21図)。溝の規模は、ともに幅約0.5~0.7m、深さ約0.2m(溝底の標高10.3~10.4m)となる。SD11594の埋土下層(土層No.2)からは、陶器碗(山茶碗)、白磁碗が出土している(第22図No.9~11)。この他の遺構には、江戸時代以降の溝SD11595・11596や土坑等が調査区全体で確認できる。

出土遺物には、土師器、須恵器、中世陶器、近世陶磁器等がある(第22・23図)。溝SD2043出土遺物(第22図No.4~8)には、上層と下層出土のものがある。下層出土のものは土師器甕(No.4・5)、上層出土のものは土師器皿(No.6)や須恵器杯(No.8)等があり、これらは斎宮I-3期のものである。

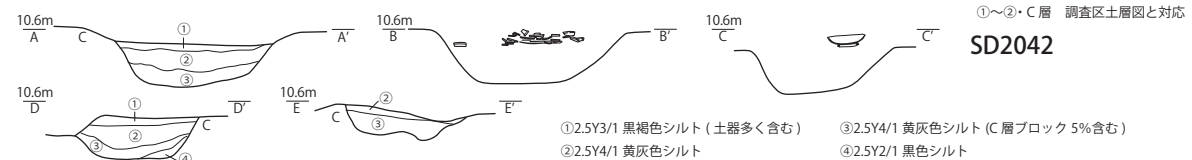
溝SD11592は、上層と下層からの出土に分けられる。上層からは、斎宮第I-3期の土器がまとめて出土した(第22図No.12~33)。須恵器甕(No.16)は、溝の最終堆積層(土層No.1)から出土したもので、口径が32.3cm・高さが57.4cmと大型のものである。体部外面は平行タタキで、同部にはタタキ後にロクロ回転を利用した工具ナデが施されている。内面には同心円当て具痕がみられ、底部付近は当て具痕の上からナデ調整が施されている。土師器皿(No.20)は、外面にヘラケズリを施している。土師器の盤あるいは皿(No.22)は、外面に把手が剥離したとみられる痕跡があるが、詳細な形状不明である。内面には斜方向の暗文がみられる。土師器の長胴甕(No.29)は、外面はハケ、



SD11592

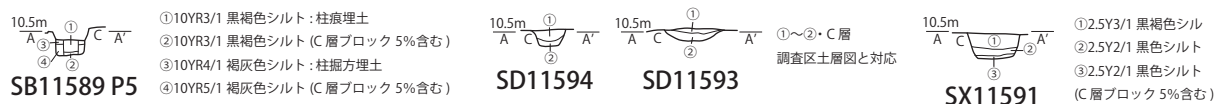


SD2043



SZ11590

SD2042・2043・11592、SZ11590 平面図・土層図・立面図（セクションのアルファベットは遺構平面図と対応、Noは遺物実測図と対応）



SB11589 P5

SD11594

SD11593

SX11591

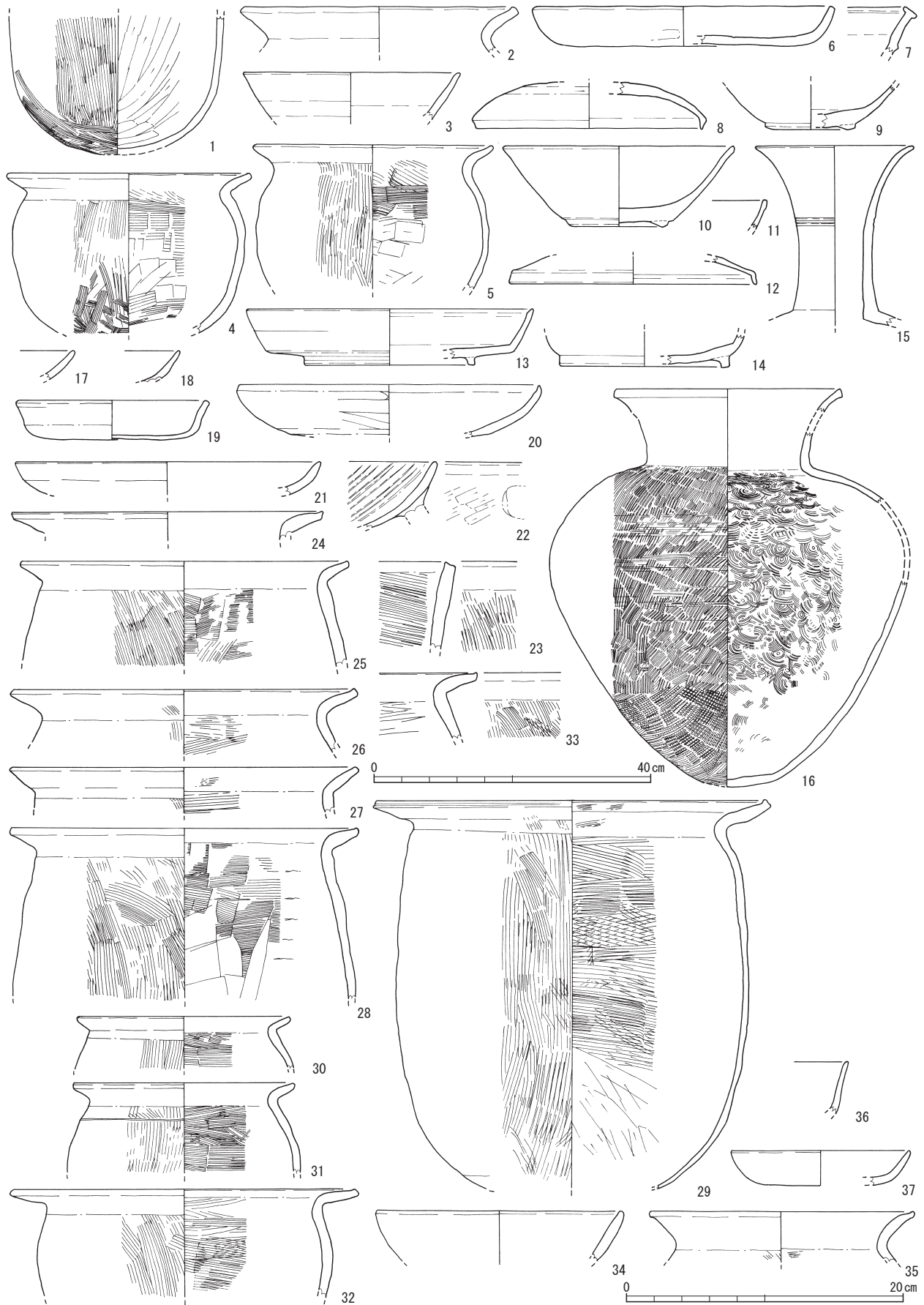
SB11589、SD11593・11594、SZ11591 土層図（セクションのアルファベットは遺構平面図と対応）

第21図 第202-5次調査 個別遺構図（1/50、1/100）

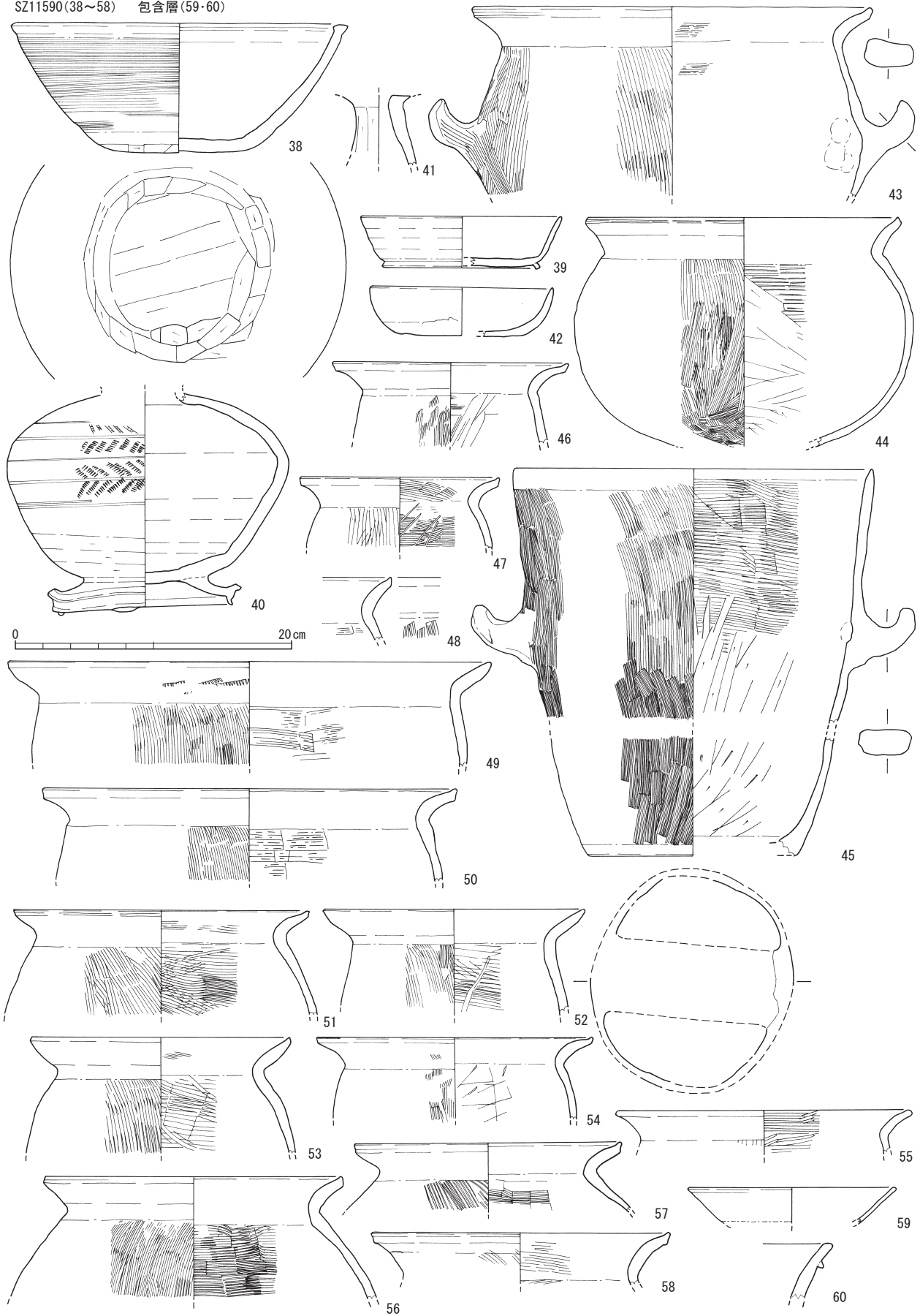
内面は底部付近をヘラケズリ、それより上をハケで調整している。下層の遺物には、土師器の杯と甕（No.34・35）がある。

古墳SZ11590出土遺物（第23図No.38～58）は、上層（第21図土層No.1・2）と下層（第21図土層No.3・4）の出土遺物に分かれる。上層では、斎宮第I-3期の土器がまとまって出土した（No.38～47・49～58）。土師器は、杯・甕・鍋・甌等がある。須恵器は、杯・鉢・長頸壺がある。須恵器鉢（No.38）は、体部外面がロクロの回転を利用したカキメ、体部と底部の境界にかけて静止ヘラケズリが施されている。焼成がやや甘いため、灰白から褐色系の色調となる。第56次調査では、斎宮第I-1期～I-2期の竪穴建物SB3644から同様な特徴をもつ須恵器鉢が出土している。須恵器長頸壺（No.40）は、胴部外面に5条の沈線があり、その間に楯状工具による刺突文が交互に向きを変え施されている。台部には焼き歪みがあり、焼成時に融着した他製品の破片が確認できる。土師器甌（No.45）は、胴部の一部が欠損し接合関係が把握できないものの、外面はハケ調整、内面は底部から中ほどにかけてヘラケズリ、それより上にハケを施すことがわかる。底部蒸気孔は、中央に棧状の仕切りがあり、その両側に半円形の孔が2箇所ある形態になるものと想定される。下層出土遺物は、土師器甕の口縁部片（No.48）がある。

SB11589 P1(1) SD2042(2・3) SD2043(4~8) SD11594(9~11) SD11592(12~35) SP11598(36) SK11597(37)



第22図 第202-5次調査 遺物実測図① (1/4、16は1/8)



第23図 第202-5次調査 遺物実測図② (1/4)

6 第202－6次調査（6AM12）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字西加座地内

原因 「歴まち整備事業」にかかる排水路改修

調査期間 令和5年1月26日～3月22日

調査面積 266.9m²

調査概要 史跡東部における排水路の改修工事に伴い、西加座地区の地下遺構の詳細を確認するために発掘調査を実施した。当該事業の計画地内では、平成31年度から令和4年度にかけて第196－1次調査、第198－2・13次調査、第201－1次調査を実施している。当該発掘調査は、第201－1次調査の10トレンチから東に延長約78mにかけて、既設排水路内で実施したものである。

発掘調査では、既設排水路等の構造物や現代造成土を除去したうえ、地山直上で遺構検出を行った。なお、攪乱等の影響により、遺物包含層は確認できなかった。地表面から地山面までの深さは約0.4～0.5m（標高約9.2～9.3m）であり、既設排水路の敷設範囲では最大約1.1～1.4m（標高8.3～8.6m）の深さとなる。調査区東端の土層断面（C-C'）では、既設排水路の南側にあたる地山の残存が比較的良好な状況であったが、遺構は確認できなかった。

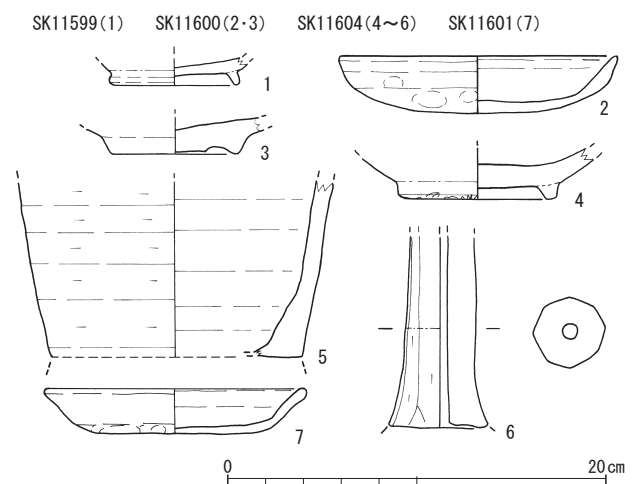
遺構は、平安時代後期～鎌倉時代の溝、土坑等がある（第26図）。溝SD11425は、西加座北区画の北辺道路の北側溝の延長とみられる溝で、既設排水路により削平を受けているが、調査区西側で溝底の一部を確認することができた。なお、遺構からの出土遺物は確認できなかった。

SD11425の北側の溝上端の地山面では、平安時代後期とみられる土坑（SK11599～11602・11605～11610）を10基やPitを確認することができた。また、SK11603・11604は、SD11425の溝底の検出面と同じ高さで確認されたもので、土坑底部の一部が残り、平安時代末期～鎌倉時代の土器片が出土している。

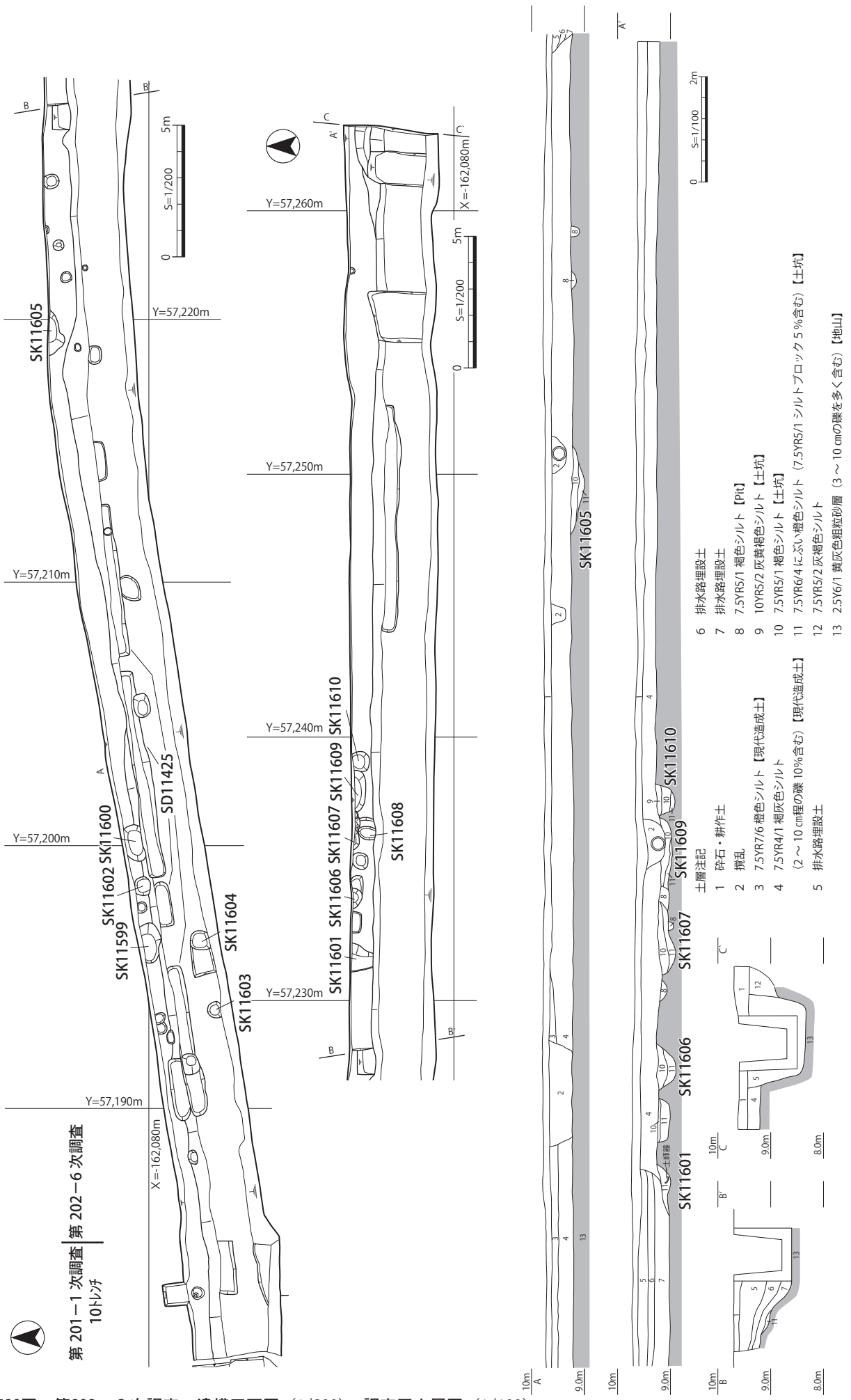
出土遺物には、土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器碗（山茶碗）、近世陶磁器がある（第25図No.1～7）。SK11599は、灰釉陶器碗（No.1）の底部がある。SK11600は、土師器杯（No.2）とロクロ土師器碗（No.3）の底部片がある。土師器杯は外面にユビオサエ・ナデがみられる。SK11604は、陶器の山茶碗（No.4）、須恵器壺とみられる底部片（No.5）、土師器高杯（No.6）の脚部片がある。須恵器壺は、体部外面にヘラケズリを施している。土師器高杯は、脚部の8面に面取りを行い、色調が灰白色のもので、斎宮Ⅲ期に属するものとみられる。SK11601は、土師器杯（No.7）があり、底部外面にはユビオサエ・ナデがみられる。



第24図 第202－6次調査区位置図（1/2,000）



第25図 第202－6次調査 遺物実測図（1/4）



第26図 第202-6次調査 遺構平面図 (1/200)・調査区土層図 (1/100)

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-1	SA11515	土坑31	奈良前期	須恵器	
202-1	SA11516	b20 Pit3	奈良	土師器	
202-1	SA11517	土坑32・33・41	奈良	土師器	
202-1	SI5469	土坑23	奈良	土師器	堅穴建物で東辺に造付竈 旧SB5469
202-1	SD11417	溝7	鎌倉	土師器、須恵器、陶器	SD11421より古い
202-1	SD11421	溝1	鎌倉	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、青磁	SD11417より新しい
202-1	SD11518	溝8	鎌倉	土師器	SD11519より古い
202-1	SD11519	溝5	鎌倉	弥生土器、陶器	SD11518より新しい
202-1	SK11520	土坑26	奈良	土師器、須恵器	SX5471より新しい
202-1	SK11521	土坑30	鎌倉?	土師器	奈良時代の遺物混入
202-1	SP11522	c16 Pit1	古代?	土師器	
202-1	SP11523	v21 Pit1	奈良	土師器	
202-1	SP11524	y19 Pit2	古代～中世	土錘	
202-1	SP11525	y21 Pit1	古代?	土師器	
202-1	SZ11404	溝2	古墳中～後期	土師器、須恵器	方墳、塚山50号墳、奈良時代の遺物出土
202-1	SZ11405	溝9	弥生後期	弥生土器	方形周溝墓
202-1	SZ11512	溝3	弥生後期	弥生土器	方形周溝墓
202-1	SZ11513	溝6	弥生後期	-	方形周溝墓
202-1	SZ11514	溝4	弥生後期	-	方形周溝墓

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-2	SX11526	落ち込み状遺構	平安後期	土師器・須恵器・ロクロ土師器	
202-2	Pit1	Pit1	-	-	

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-3	SA11528	c2 Pit1、柱穴32	奈良後～平安前期	土師器	
202-3	SA11529	柱穴9、柱穴29	奈良後～平安前期	土師器	
202-3	SB11530	柱穴1～6・11～17	奈良後～平安前期	土師器、灰釉陶器、製塩土器	
202-3	SB11531	土坑16 柱穴18～24・26・38～40	奈良後～平安前期	土師器、灰釉陶器、製塩土器、鉄製品	
202-3	SB11532	柱穴10・28・34～36	奈良後～平安前期	土師器、須恵器、黒色土器	
202-3	SD11533	土坑28	江戸・明治	石製品	
202-3	SD11534	溝1	江戸・明治	灰釉陶器、製塩土器	
202-3	SD11535	溝2	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11536	溝3	江戸・明治	灰釉陶器	
202-3	SD11537	溝7	江戸・明治	ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器	
202-3	SD11538	溝8	江戸・明治	土師器	
202-3	SD11539	溝11	江戸・明治	土師器、近世陶磁器	
202-3	SD11540	溝4	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11541	溝5	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11542	溝10	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11543	溝12	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11544	溝13	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11545	溝14	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11546	溝15	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11547	溝17	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11548	溝18	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11549	溝20	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11550	溝21・22	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SD11551	溝23	江戸・明治	近世陶磁器	伊勢街道の道路側溝か?
202-3	SD11552	溝24	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SE11527	井戸1	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SK11553	土坑8	奈良後期	土師器、須恵器	SB11531より古い
202-3	SK11554	土坑11	奈良後期	土師器、須恵器、白磁	SB11530より古い
202-3	SK11555	土坑13	平安後期	土師器、ロクロ土師器	
202-3	SK11556	土坑17	奈良?	土師器	SK11553より新しい
202-3	SK11557	土坑20	平安	土師器	SK11558より古い
202-3	SK11558	土坑19	平安	土師器	SK11559より古い
202-3	SK11559	土坑18	平安	土師器	
202-3	SK11560	土坑24	奈良後期	土師器	SB11531より古い
202-3	SK11561	土坑25	奈良後期	土師器	SB11530より古い
202-3	SK11562	土坑30	平安中期	土師器	SB11530より新しい
202-3	SK11563	土坑32	平安中期	土師器	SB11532より新しい
202-3	SK11564	土坑36	平安	土師器	
202-3	SK11565	土坑41	平安	土師器、陶器	
202-3	SK11566	土坑31	鎌倉	土師器、陶器	SP11574より新しい
202-3	SK11567	土坑1	江戸・明治	近世陶磁器	
202-3	SK11568	土坑2	江戸・明治	須恵器、近世陶磁器	
202-3	SK11569	土坑4	江戸・明治	土師器、近世陶磁器	
202-3	SK11570	土坑14	江戸・明治	土師器、近世陶磁器	
202-3	SK11571	土坑27	江戸・明治	土師器、近世陶磁器	
202-3	SK11572	土坑33	江戸・明治	灰釉陶器	
202-3	SP11573	柱穴27	奈良後～平安前期	-	
202-3	SP11574	柱穴30	奈良後～平安前期	-	
202-3	SP11575	柱穴31	奈良後～平安前期	-	
202-3	SP11576	柱穴33	奈良後～平安前期	-	
202-3	SP11577	柱穴7	奈良後～平安前期	土師器	
202-3	SP11578	柱穴25	奈良後～平安前期	-	
202-3	SP11579	柱穴8	奈良後～平安前期	土師器	
202-3	SP11580	柱穴37	奈良後～平安前期	鉄製品	
202-3	SP11581	b1 Pit1	奈良～平安	土師器	SK11554より新しい

第2表 第202次調査 遺構一覧表①

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-3	SP11582	c2 Pit2	奈良～平安	土師器	
202-3	SP11583	c2 Pit4	奈良～平安	製塩土器	
202-3	SP11584	d1 Pit3	奈良～平安	土師器	
202-3	SP11585	e2 Pit2	奈良～平安	土師器	
202-3	SP11586	f2 Pit2	奈良～平安	土師器	
202-3	SP11587	f5 Pit2	奈良～平安	土師器	
202-3	SP11588	g2 Pit1、土坑21	平安前期	緑釉陶器、灰釉陶器	

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-4	Pit1	Pit1	不明	土師器	

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-5	SB11589	n12 Pit1	奈良	土師器	
202-5	SD2042	溝10	奈良前期	土師器、須恵器	
202-5	SD2043	溝11	奈良前期	土師器、須恵器	
202-5	SD11592	溝1	奈良前期	土師器、須恵器	
202-5	SD11593	溝8	鎌倉	土師器	SZ1590より新しい
202-5	SD11594	溝9	鎌倉	陶器、白磁	SZ1590より新しい
202-5	SD11595	溝6	江戸	近世陶磁器	SD11593・11594より新しい
202-5	SD11596	溝7	江戸	近世陶磁器	SD2042・2043より新しい
202-5	SK11597	土坑17	奈良前期	土師器	
202-5	SP11598	n11 Pit1	古代?	須恵器	
202-5	SZ11590	溝2	古墳中～後期	土師器、須恵器	円墳、塚山51号墳、奈良時代の遺物出土
202-5	SX11591	土坑5、溝3・5	不明	近世陶磁器	円墳の可能性があるが不明

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
202-6	SD11425	-	平安～鎌倉	-	
202-6	SK11599	土坑1	平安後	灰釉陶器	
202-6	SK11600	土坑3	平安後	土師器、ロクロ土師器	
202-6	SK11601	土坑12	平安	土師器	
202-6	SK11602	土坑2	平安後～鎌倉	土師器	
202-6	SK11603	土坑4	平安?	須恵器	
202-6	SK11604	土坑5	鎌倉	土師器、須恵器、陶器	
202-6	SK11605	土坑6	平安?	土師器、須恵器	
202-6	SK11606	土坑7	平安?	土師器、須恵器	
202-6	SK11607	土坑8	平安?	土師器	
202-6	SK11608	土坑9	平安?	土師器	
202-6	SK11609	土坑10	平安?	須恵器	
202-6	SK11610	土坑11	平安?	須恵器	

第2表 第202次調査 遺構一覧表②

第202-1次

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	003-6	須恵器	平瓶	SA11515 P3	土坑31 断割	推定胴径11.6 残存高4.1	外面 ロコナテ・ナメ 内面 ロコナテ	密	良	灰7.5Y5/1	胴部 1/12	内面に焼膨れ
2	004-2	土師器	甕	SA11516 P1	b20 Pit3	残存高2.8	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	
3	005-5	土師器	甕	S15469	土坑23 c	推定口径19.8 残存高4.4	外面 ナ後ナテ・ナテ 内面 ナ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
4	005-6	土師器	甕	S15469 竈	土坑23 gカマド	推定口径20.2 残存高4.2	外面 ナ・ナテ 内面 ナ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
5	006-2	土師器	甕	S15469 竈	土坑23 gカマド	残存高6.4	外面 ナ・ナテ 内面 ナ・ナ後ナテ・ナテ	密	良	にぶい橙5YR6/4	口縁部 1/12未満	
6	006-1	土師器	甕	S15469 竈	土坑23 gカマド	残存高5.5	外面 ナ後ナテ・ナテ 内面 ナ・ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部 1/12未満	外面に煤付着
7	005-7	土師器	甕	S15469 竈	土坑23 gカマド	残存高5.3	外面 ナテ 内面 ナ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	外面に煤付着
8	002-8	須恵器	甕	SD11417 下層	溝7 下層	残存高5.6	外面 ロコナテ・平行ナテ 内面 ナテ・ロコナテ・同心円当具	密	良	褐灰10YR6/1	頸部 2/12	
9	003-3	須恵器	壺	SD11417	溝7	推定口径9.6 器高4	外面 ロコナテ 内面 ナテ・ロコナテ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12	外面に自然釉
10	003-2	須恵器	蓋	SD11417	溝7	残存高1.7	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰白5Y7/1	-	
11	002-3	陶器	山茶碗	SD11417	溝7	残存高3.7	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部 1/12未満	外面に墨痕
12	002-5	陶器	山茶碗	SD11417	溝7	推定底径6.7 残存高2.1	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台・靱殻痕 内面 ロコナテ・靱殻痕	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 1/12	
13	002-6	土師器	皿	SD11417	溝7	残存高1.7	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	
14	002-7	土師器	皿	SD11417	溝7	残存高2.5	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
15	007-5	弥生土器	高杯	SD11421	溝1	残存高7.2	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	-	
16	001-5	土師器	皿	SD11421	溝1	口径6.6 器高1	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 6/12	
17	001-7	土師器	皿	SD11421 下層	溝1 下層	推定口径7.2 器高0.9	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部 3/12	
18	007-1	須恵器	円面硯	SD11421	溝1	残存高5.2	外面 ロコナテ・線刻 内面 ロコナテ	密	良	褐灰10YR6/1	-	線刻は縦3条・横1条
19	003-4	須恵器	杯	SD11421	溝1	推定口径13.4 残存高3.4	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部 1/12	

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表①

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
20	001-6	土師器	杯	SD11421	溝1	推定口径10.8 器高3.2	外面 ナテ・北ノキ 内面 ナテ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12	
21	001-1	陶器	山茶碗	SD11421 下層	溝1 下層	底径6.6 残存高4.3	外面 ナテ・ロコナテ・貼付高台・粗穀痕 内面 ナテ・ロコナテ・粗穀痕	密	良	釉:海松茶817 素地:にぶい橙10YR7/2	底部 完形	底部外面に墨書 内外面に自然釉
22	001-3	陶器	山茶碗	SD11421	溝1	推定底径7 残存高3.5	外面 ナテ・ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部 2/12	
23	001-2	陶器	山茶碗	SD11421	溝1	底径6.6 残存高3.4	外面 ナテ・ロコナテ・貼付高台 内面 ナテ・ロコナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部 6/12	内面に煤付着
24	001-4	青磁	碗	SD11421	溝1	推定底径5.6 残存高3.8	外面 ロコヘラスリ・削出高台 内面 ロコナテ・線刻花文	密	良	釉:彌茶815 素地:にぶい橙10YR7/2	底部 1/12	内外面に施釉
25	008-4	弥生土器	器台	SD11519	溝5	残存高5.7	外面 ナテ・竹管文 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	胴部 1/12	
26	008-3	弥生土器	器台	SD11519	溝5	残存高8.3	外面 ナテ・貼付突帯・竹管文 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	胴部 1/12	
27	002-2	陶器	山茶碗	SD11519	溝5	底径6.4 残存高2.5	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台・粗穀痕 内面 ナテ・ロコナテ・粗穀痕	密	良	灰白2.5Y8/1	底部 完形	
28	003-1	陶器	山茶碗	SD11519	溝5	底径6.6 残存高1.9	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰白5Y7/1	底部 完形	
29	002-4	陶器	山茶碗	SD11519	溝5	底径7.1 残存高1.5	外面 ナテ・回転糸切・貼付高台・粗穀痕 内面 ロコナテ	密	良	釉:山鳩色822 素地:灰黄褐10YR6/2	底部 完形	内面に自然釉
30	002-1	陶器	山茶碗	SD11519	溝5	推定底径6.2 残存高2.9	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台 内面 ナテ・ロコナテ	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 3/12	
31	007-2	須恵器	捏鉢	SK11520	土坑26	底径10.6 残存高3.4	外面 ナテ・ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰7.5Y6/1	底部 完形	
32	007-3	土師器	皿	SK11520	土坑26	推定口径18.8 残存高3	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部 3/12	
33	006-3	土師器	甕	SK11520 下層	土坑26 下層	推定胴径16.5 残存高10.3	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	胴部 1/12	
34	009-1	土師器	甕	SK11520	土坑26	口径 任意 残存高9.9	外面 ナテ・ナテ 内面 ナテ・ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 1/12未満	
35	003-5	土師器	甕	SK11521	土坑30	推定口径15.6 残存高6.2	外面 ナテ・ナテ後ナテ・ナテ 内面 ナテ・ナテ後ナテ・ナテ	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部 4/12	
36	004-3	土師器	杯	SP11522	c16 Pit1	残存高2.8	外面 ナテ・北ノキ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	
37	004-4	土製品	土錘	SP11524	y19 Pit2	残存長2.8 幅1 孔径0.3	ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	-	重さ2.41 g
38	004-1	土師器	甕	SP11525	y21 Pit1	残存高3.3	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部 1/12未満	
39	003-7	土師器	皿	SP11523	v21 Pit1 取上No.2	残存高2.1	外面 ナテ・ナテ 内面 ナテ	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部 1/12未満	
40	010-1	土師器	甕	SP11523	v21 Pit1 取上No.1	推定胴径23.9 残存高17.6	外面 ナテ 内面 ナテ・ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部 完形	
41	012-1	弥生土器	壺	SZ11405 下層	溝9下層 取上No.1	推定口径11.6 残存高20.4	外面 ナテ・ナテ 内面 北ノキ・ナテ・ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
42	007-4	弥生土器	高杯	SZ11405 下層	溝9下層 取上No.2	口径12.5 底径7.8 器高8.7	外面 ナテ・ナテ 内面 ナテ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	完形	
43	008-1 008-2	弥生土器	壺	SZ11512 下層	溝3 下層	推定口径12.6	外面 ナテ・櫛描直線文・櫛描波状文 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 6/12	
44	013-1	弥生土器	壺	SZ11512 下層	溝3 下層	推定胴径25 残存高11.6	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 6/12	
45	007-6	縄文土器	深鉢	SZ11404 下層	溝2 下層	残存高5	外面 ナテ・貼付突帯 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12未満	
46	011-1	土師器	甕	SZ11404 上層	溝2 取上No.1	推定胴径25.9 残存高27.6	外面 ナテ 内面 ナテ・ナテ・ナテ	密	良	橙5YR6/6	底部 完形	外面に線刻1条 底部に穿孔1箇所
47	014-1	土師器	甕	SZ11404 上層	溝2 取上No.2	口径19.3 残存高29.1	外面 ナテ 内面 ナテ・ナテ後ナテ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 7/12	底部に穿孔1箇所
48	006-4	須恵器	甕	SZ11404 上層	溝2 上層	残存高7.6	外面 ロコナテ・ナテ・波状文 内面 ロコナテ	密	不良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	内外面が赤褐色
49	005-2	須恵器	杯	包含層	y21 包含層	残存高3.6	外面 ロコナテ・ヘ切後ナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰N5/	口縁部 1/12未満	
50	005-1	須恵器	杯	包含層	y18 包含層	残存高2.6	外面 ロコナテ・ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 1/12未満	
51	005-3	須恵器	壺	包含層	y18 包含層	推定口径21.8 残存高3.1	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰7.5Y6/1	口縁部 1/12	
52	004-7	土師器	甕	包含層	w23 包含層	残存高4.5	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙5YR7/4	口縁部 1/12未満	
53	004-8	土師器	甕	包含層	w23 包含層	残存高6.5	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12未満	
54	004-5	陶器	山茶碗	包含層	y18 包含層	底径7 残存高3.1	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 完形	内面に煤付着
55	004-6	青磁	碗	包含層	b18 包含層	残存高2	外面 鑄蓮弁文 内面 ロコナテ	密	良	釉:利休黒953 素地:灰白2.5Y7/1	-	内外面に施釉
56	005-4	須恵器	杯	表土	x23 表土	推定口径15 残存高2.9	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰2.5Y6/2	口縁部 2/12	

第202-3次

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	014-4	土師器	杯	SA11528 P1	c2 Pit1	残存高2.3	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
2	013-8	土師器	杯	SA11529 P2	柱穴9	残存高2.7	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
3	013-9	土師器	杯	SA11529 P2柱掘方埋土	柱穴9 柱掘方埋土	残存高2.5	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表②

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
4	014-1	土師器	甕	SA11529 P3	柱穴29	推定口径13.8 残存高2.7	外面 ㇿ・ㇿ ⁺ 内面 ㇿ・ㇿ ⁺	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 3/12	
5	010-1	土師器	鍋	SB11530 P2柱掘方埋土	柱穴2 柱掘方埋土	推定底径11.2 残存高8.8	外面 ㇿ・ㇿ ⁺ 内面 工具ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺	密	良	橙5YR7/6	底部 1/12	
6	010-2	土師器	杯	SB11530 P4柱掘方埋土	柱穴4 柱掘方埋土	残存高2.7	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ? 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
7	010-3	土師器	杯	SB11530 P5柱掘方埋土	柱穴5 柱掘方埋土	残存高3.1	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部 1/12未満	
8	010-7	土師器	椀?	SB11530 P9	柱穴13	推定口径16.6 残存高2.7	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12	
9	010-6	土師器	甌	SB11530 P9柱抜取埋土	柱穴13 柱抜取埋土	推定口径14.9 残存高9	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ・ㇿ ⁺ 内面 工具ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 1/12	
10	010-5	灰釉陶器	皿	SB11530 P9柱抜取埋土	柱穴13 柱抜取埋土	推定口径15.6 残存高1.4	外面 ロコㇿ ⁺ 内面 ロコㇿ ⁺	密	良	釉:838抹茶色 素地:灰黄褐10YR6/2	口縁部 1/12	内外面に施釉
11	010-4	灰釉陶器	椀	SB11530 P9柱抜取埋土	柱穴13 柱抜取埋土	推定口径10.3 器高3.5 底径5.5	外面 ロコㇿ ⁺ ・ロコㇿ ⁺ スリ・貼付高台 内面 ロコㇿ ⁺	密	良	釉:鶯色818 素地:灰白2.5Y8/1	底部 7/12	内外面に施釉
12	011-1	土師器	杯	SB11530 P11柱掘方埋土	柱穴15 柱掘方埋土	推定口径16 残存高2.8	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部 1/12	
13	011-2	製塩土器	志摩式製塩土器	SB11530 P12柱抜取埋土	柱穴16 柱抜取埋土	残存高3.7	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/6	底部 1/12未満	粘土接合痕
14	011-4	土師器	杯	SB11531 P12柱掘方埋土	柱穴18 柱掘方埋土	推定口径16 残存高3.2	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12	粘土接合痕
15	011-3	土師器	杯	SB11531 P12柱抜取埋土	柱穴18 柱抜取埋土	残存高2	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12未満	
16	011-5	土師器	皿	SB11531 P3柱抜取埋土	柱穴19 柱抜取埋土	推定口径13.8 器高2.5	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部 1/12	
17	011-6	灰釉陶器	椀	SB11531 P3	柱穴19	残存高3	外面 ロコㇿ ⁺ 内面 ロコㇿ ⁺	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:灰黄褐10YR6/2	口縁部 1/12未満	内外面に施釉
18	011-7	土師器	杯	SB11531 P2柱掘方埋土	柱穴20 柱掘方埋土	残存高2.9	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	口縁部に油煙跡
19	011-8	土師器	杯	SB11531 P2柱掘方埋土	柱穴20 柱掘方埋土	残存高3.5	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12未満	
20	017-4	鉄製品	釘	SB11531 P2柱掘方埋土	柱穴20 柱掘方埋土	残存長4.1 幅0.3 厚0.3	断面は方形	-	-	-	-	重さ2.41 g
21	011-9	土師器	杯	SB11531 P4柱抜取埋土	柱穴21 柱抜取埋土	推定口径15.6 残存高3.4	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺ ・暗文	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 3/12	
22	012-1	土師器	杯	SB11531 P4柱抜取埋土	柱穴21 柱抜取埋土	残存高2.4	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12未満	
23	012-2	土師器	甕	SB11531 P4柱抜取埋土	柱穴21	推定口径22.4 残存高4.3	外面 ㇿ・ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12	
24	012-3	土師器	杯	SB11531 P1柱掘方埋土	柱穴22 柱掘方埋土	残存高2.7	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部 1/12未満	
25	013-6	製塩土器	志摩式製塩土器	SB11531 P1柱掘方埋土	柱穴22 柱掘方埋土	残存高3.2	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
26	012-4	土師器	杯	SB11531 P14柱掘方埋土	柱穴23 柱掘方埋土	推定口径12.8 残存高2.1	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 2/12	
27	012-7	土師器	皿	SB11531 P14	柱穴23	推定口径15.2 残存高2.3	外面 ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ スリ 内面 ㇿ ⁺	密	良	にぶい赤褐5YR5/4	口縁部 1/12	
28	012-6	灰釉陶器	椀	SB11531 P14	柱穴23	残存高3.4	外面 ロコㇿ ⁺ 内面 ロコㇿ ⁺	密	良	釉:838抹茶色 素地:灰白2.5Y8/1	口縁部 1/12未満	内外面に施釉
29	012-5	灰釉陶器	椀	SB11531 P14	柱穴23	推定底径10.4 残存高2.1	外面 ロコㇿ ⁺ ・ロコㇿ ⁺ スリ・貼付高台 内面 ロコㇿ ⁺	密	良	釉:鶯色818 素地:灰白2.5Y7/1	底部 1/12	内外面に施釉
30	013-5	製塩土器	志摩式製塩土器	SB11531 P14柱掘方埋土	柱穴23 柱掘方埋土	残存高2.8	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
31	013-4	製塩土器	志摩式製塩土器	SB11531 P14柱掘方埋土	柱穴23 柱掘方埋土	残存高3.7	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部 1/12未満	
32	013-3	製塩土器	志摩式製塩土器	SB11531 P14柱掘方埋土	柱穴23 柱掘方埋土	残存高2.1	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙2.5YR6/6	底部 1/12未満	
33	012-8	土師器	甕	SB11532 P4柱掘方埋土	柱穴28 柱掘方埋土	残存高2.8	外面 ㇿ・ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12未満	外面に煤付着
34	012-9	土師器	甕	SB11532 P4	柱穴28	残存高2.4	外面 ㇿ後ㇿ ⁺ ・ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	
35	012-10	土師器	杯	SB11532 P4	柱穴28	推定口径15.4 残存高1.9	外面 ㇿ ⁺ 内面 ㇿ ⁺	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12	

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表③

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
36	013-1	須恵器	壺	SB11532 P4	柱穴28	推定口径7.8 残存高4.2	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	褐灰10YR6/1	口縁部 1/12	
37	013-7	土師器	杯	SB11532 P3柱埋土	柱穴36 柱埋土	残存高2.2	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部 1/12未満	
38	013-2	黒色土器	碗	SB11532 P3柱埋方埋土	柱穴36 柱埋方埋土	推定底径9.2 残存高1.4	外面 ナテ・貼付高台 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	底部 1/12	内面が黒色化
39	014-2	土師器	甕	SP11577	柱穴7	残存高1.9	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12未満	
40	014-3	土師器	杯	SP11579 柱埋方埋土	柱穴8 柱埋方埋土	推定口径12.6 器高2.5	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 4/12	
41	015-1	土師器	碗B	SP11579 柱埋方埋土	柱穴8 柱埋方埋土	推定口径16.3 残存高2.8	外面 ハ・ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12	
42	017-5	鉄製品	工具	SP11580 柱埋方埋土	柱穴37 柱埋方埋土	残身長7.5 幅2.1 厚0.3	柄部の端を1箇所折り返す	-	-	-	-	重さ20.05 g
43	014-5	土師器	杯	SP11581	b1 Pit1	残存高4.9	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	
44	014-6	土師器	杯	SP11582	c2 Pit2	残存高2.4	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
45	014-7	製塩土器	志摩式 製塩土器	SP11583	c2 Pit4	残存高5.6	外面 ナテ 内面 ナテ	粗	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12未満	
46	014-9	土師器	壺	SP11584	d1 Pit3	残存高5.7	外面 ハ・ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	
47	014-8	土師器	杯	SP11585	e2 Pit2	残存高3.4	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	
48	015-2	土師器	杯	SP11586	f2 Pit2	残存高3.2	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 1/12未満	
49	015-3	土師器	杯	SP11587	f5 Pit2	残存高2	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満	
50	002-1	緑釉陶器	碗	SP11588	g2 Pit1	残存高1.8	外面 ロコナテ 内面 陰刻花文	密	良	釉:青白椽989 素地:灰黄2.5Y7/2	底部 1/12未満	内外面に施釉
51	007-5	灰釉陶器	皿	SP11588	土坑21	推定口径16.5 残存高3.1	外面 ロコナテ・ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	釉:彌茶815 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12	内面に施釉
52	004-1	石製品	砥石	SD11533	土坑28	残身長4.8 幅2.6 厚1.7	側面は3面使用(上・左・下)・1面未使用	-	-	-	-	重さ29.4 g、砂岩製
53	005-7	製塩土器	志摩式 製塩土器	SD11534	溝1	残存高5.4	外面 ナテ・北ナテ 内面 工具ナテ	密	良	橙2.5YR6/6	底部 1/12未満	
54	002-2	灰釉陶器	碗	SD11534	溝1	推定底径6.7 残存高1.6	外面 ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:838抹茶色 素地:灰白2.5Y7/1	底部 4/12	内外面に施釉
55	006-1	灰釉陶器	碗	SD11536	溝3	推定底径6.1 残存高1.3	外面 ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ・重ね焼き痕	密	良	釉:山鳩色822 素地:黄灰2.5Y6/1	底部 1/12	内面に施釉
56	006-5	ロクロ土師器	碗	SD11537	溝7	推定底径7 残存高1.9	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰白10YR8/2	底部 4/12	
57	006-2	灰釉陶器	碗	SD11537	溝7	推定底径6.8 残存高2.8	外面 ロコナテ・ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部 3/12	内面に施釉
58	006-3	灰釉陶器	碗	SD11537	溝7	推定底径8.3 残存高3.8	外面 ロコナテ・ロコナテ・貼付高台 内面 ロコナテ・重ね焼き痕	密	良	釉:838抹茶色 素地:灰白10YR7/1	底部 3/12	内面に施釉
59	006-4	灰釉陶器	段皿	SD11537	溝7	推定口径17.8 器高3.4 底径8.9	外面 ロコナテ・ナテ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:855裏紫色 素地:灰白2.5Y7/1	底部 2/12	内外面に施釉
60	006-6	須恵器	碗A	SD11537	溝7	推定口径16.3 器高7.8 底径10	外面 ロコナテ・ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 3/12	
61	006-7	土師器	甌	SD11538	溝8	残存高8.9	外面 ハ・ナテ・北ナテ 内面 ハナテ・ナテ・北ナテ	密	良	橙5YR6/6	-	
62	007-2	土師器	甕	SD11539	溝11	残存高9	外面 ハ・ナテ 内面 ハナテ・ハ・ハ後ナテ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 1/12未満	
63	007-1	土師器	鍋?	SD11539	溝11	推定口径37.5 残存高6.2	外面 ハ・ナテ 内面 ハ・ハ後ナテ・ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
64	017-3	陶器	拳骨 茶碗	SD11539	溝11	口径11.4 器高7.8 底径4.6	外面 ロコナテ・北ナテ・削出高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:皂色959 素地:灰白2.5Y8/2	底部 完形	内外面に施釉、瀬戸美濃産
65	015-6	土師器	甕	SK11555	土坑13	残存高2.5	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 1/12未満	
66	003-3	土師器	皿	SK11555	土坑13	残存高1.4	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 1/12未満	外面に煤付着?
67	003-4	土師器	皿	SK11555	土坑13	口径8.8 器高2	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 11/12	
68	003-7	土師器	皿	SK11555	土坑13	推定口径13.7 器高1.9	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12	
69	015-7	土師器	杯	SK11555	土坑13	残存高3.1	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	底部 1/12未満	
70	003-6	土師器	碗	SK11555	土坑13	推定底径7.8 残存高1.9	外面 ナテ・貼付高台 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部 1/12	
71	003-5	ロクロ土師器	皿	SK11555	土坑13	口径9 器高1.6 底径4.1	外面 ロコナテ・回転糸切 内面 ロコナテ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 9/12	
72	007-3	須恵器	蓋	SK11553	土坑8	推定口径26.5 残存高2.4	外面 ロコナテ・ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12	
73	008-1	土師器	杯	SK11553	土坑8	推定口径14.8 器高3.5	外面 ナテ・ハナテ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 2/12	
74	002-4	土師器	杯	SK11554	土坑11 取上No.1	推定口径12 器高3.3	外面 ナテ・北ナテ 内面 ナテ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 5/12	

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表④

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
75	002-5	土師器	杯	SK11554	土坑11 取上No.2	推定口径15.2 器高3.8	外面 ナテ・ハクスリ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 2/12	粘土接合痕
76	002-6	土師器	杯	SK11554	土坑11 取上No.3	口径11.4 器高3.7	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 11/12	粘土接合痕
77	003-2	土師器	杯	SK11554	土坑11 南東断割	推定口径11.8 器高3.1	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR5/3	口縁部 2/12	底部外面に線刻、 外面に煤付着
78	002-7	土師器	甕	SK11554	土坑11 取上No.4	推定口径14.6 器高9.3	外面 ハクスリ・ハ・ナテ 内面 ハクスリ・ハクスリ後ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 2/12	
79	005-6	白磁	碗	SK11554	土坑11 南西断割	推定口径5.1 残存高2.1	外面 ロコクスリ・削出高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:灰白2.5Y7/1	底部 2/12	内面に施釉
80	003-1	須恵器	鉢	SK11554	土坑11	残存高4	外面 ロコナテ 内面 ロコナテ	密	良	灰2.5Y7/2	口縁部 1/12未満	
81	007-4	土師器	皿	SK11556	土坑17	残存高2.3	外面 ナテ・ヒビナエ・ハクスリ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	底部 1/12未満	内面に線刻2条
82	009-1	土師器	杯	SK11557	土坑20	推定口径15.8 器高2.8	外面 ナテ・ハクスリ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12	
83	008-2	土師器	杯	SK11557	土坑20 断割	推定口径16.3 器高3.2	外面 ナテ・ハクスリ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12	外面に墨書
84	008-4	土師器	皿?	SK11557	土坑20	推定口径20.6 残存高4	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12	粘土接合痕
85	008-3	土師器	甕	SK11557	土坑20 断割	残存高8.5	外面 ハ 内面 ハクスリ・ハ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	-	外面に線刻縦2 条・横1条
86	009-5	灰釉陶器	碗	SK11572	土坑33	底径4.5 残存高1.6	外面 ロコクスリ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:山鳩色822 素地:灰白2.5Y7/1	底部 4/12	内面に施釉
87	009-2	土師器	盤	SK11564	土坑36	推定口径15.9 残存高8.7	外面 ハクスリ 内面 ナテ・ハクスリ	密	良	橙2.5YR6/6	底部 1/12	
88	005-5	土師器	鍋	SK11565	土坑41	口径22.6 残存高6.4	外面 ハ・ナテ・ヒビナエ 内面 ハ・ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 6/12	
89	005-4	陶器	山茶碗	SK11565	土坑41	口径15.2 器高5.1 底径7.9	外面 ナテ・ロコナテ・回転糸切・貼付高台 内面 ナテ・ロコナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/1	底部 完形	
90	001-1	土師器	杯	SK11562	土坑30 取上No.1	口径13.2 器高3	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	完形	粘土接合痕
91	001-2	土師器	杯	SK11562	土坑30 取上No.2	口径12.6 器高2.7	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	完形	粘土接合痕
92	001-3	土師器	杯	SK11562	土坑30 取上No.3	推定口径12.8 器高3	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 5/12	
93	001-4	土師器	杯	SK11562	土坑30 取上No.4	口径13.3 器高2.9	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 10/12	
94	001-5	土師器	杯	SK11562	土坑30 取上No.5	口径13.1 器高2.4	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 7/12	
95	005-3	土師器	皿	SK11563	土坑32 取上No.1	口径15.4 器高1.8	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 7/12	
96	016-5	陶器	梅文皿	SK11567	土坑1	口径11.3 器高4.5 底径4.1	外面 ロコナテ・ナテ・削出高台 内面 ロコナテ・梅文	密	良	釉:ねこやなぎ色825 素地:にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 5/12	内外面に施釉、瀬 戸美濃産
97	009-3	須恵器	杯	SK11568	土坑2	推定口径18.7 残存高5.7	外面 ロコナテ・ロコクスリ 内面 ロコナテ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12	
98	017-1	陶器	腰鍔 茶碗	SK11568	土坑2	口径8.7 器高5.2 底径3.7	外面 ロコナテ・ナテ・斜・削出高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:象牙色789・ナテ色 816 素地:灰白2.5Y8/2	口縁部 6/12	内外面に施釉、瀬 戸美濃産
99	004-2	石製品	砥石	SK11566	土坑31 取上No.4	残存長11.4 幅4.3 厚4.7	側面は3面使用(上・左・下)・1面未使用、 小口面は未使用	-	-	-	-	重さ372g、片岩 製
100	009-4	陶器	山茶碗	SK11566	土坑31 南東断割	底径6.2 残存高2.3	外面 ロコクスリ・回転糸切・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	灰白10YR7/1	底部 8/12	内面に自然釉
101	004-3	陶器	山茶碗	SK11566	土坑31 取上No.1	底径6.1 残存高2.5	外面 ロコクスリ・回転糸切・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部 完形	
102	004-4	陶器	山茶碗	SK11566	土坑31 取上No.2	底径6.9 残存高2.3	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台・靱殻痕 内面 ロコナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部 完形	
103	004-5	陶器	山茶碗	SK11566	土坑31 取上No.3	底径6.8 残存高4	外面 ロコナテ・回転糸切・貼付高台・靱殻痕 内面 ロコナテ	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 10/12	
104	005-2	土師器	杯	SK11566	土坑31	推定口径14.7 残存高1.9	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12	
105	005-1	土師器	鍋	SK11566	土坑31	推定口径21.5 残存高4.9	外面 ハ・ナテ 内面 ハ・ナテ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12	
106	003-8	土師器	皿	SK11570	土坑14	推定口径10.3 器高1.8	外面 ナテ・ヒビナエ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 2/12	
107	016-2	土師器	茶釜	SK11569	土坑4	推定口径11.6 残存高7.5	外面 ハ・ナテ・粘土貼付痕 内面 ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 4/12	体部に穿孔3箇 所、粘土接合痕
108	016-4	土師器	焙烙	SK11571	土坑27	口径20.8 器高7.3	外面 ナテ・ナテ 内面 工具ナテ・ナテ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 8/12	
109	016-3	土師器	羽釜	SK11571	土坑27	口径23.2 器高10.7	外面 ナテ・ナテ・ヒビナエ 内面 工具ナテ・ナテ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 10/12	
110	017-2	磁器	染付 丸碗	SK11571	土坑27	口径9.7 器高5.2 底径3.9	外面 ロコナテ・削出高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:藍色869 素地:灰白5Y8/1	底部 11/12	内外面に施釉・施 文、肥前産
111	016-1	土師器	皿	包含層	b3 包含層	推定口径13.7 器高2.2	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12	
112	015-8	土師器	鍋	包含層	b2 包含層	推定口径 23 残存高3.4	外面 ナテ 内面 ナテ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	内外面に煤付着
113	015-4	須恵器	碗A	包含層	e2 包含層	推定底径8.7 残存高6.1	外面 ロコナテ・ロコクスリ 内面 ロコナテ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 3/12	
114	015-5	須恵器	壺	包含層	g2 包含層	底径4.3 残存高5.5	外面 ロコナテ・回転糸切 内面 ロコナテ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部 9/12	内外面に自然釉付 着
115	001-6	灰釉陶器	台付皿	包含層	d1 包含層	推定口径13.4 器高2.4 底径6.3	外面 ナテ・ロコナテ・ロコクスリ・貼付高台 内面 ロコナテ	密	良	釉:彌茶815 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部 4/12	内外面に施釉、底 部外面に墨書?

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表⑤

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
116	002-3	土製品	土錘	包含層	g7 包含層	残存長3.9 幅1.1 孔径0.4	ナ	密	良	明黄褐10YR7/6	-	重さ3.27g

第202-5次

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	008-2	土師器	甕	SB11589	n12 Pit1	推定胴径10 残存高15.5	外面 ハ 内面 ヘラスリ・ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	胴部 完形	
2	003-5	土師器	甕	SD2042	溝10	推定口径19.4 残存高3.3	外面 ナ 内面 ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
3	003-6	須恵器	杯	SD2042	溝10	推定口径15.4 残存高3.4	外面 ロコナ 内面 ロコナ	密	良	灰5Y6/1	口縁部 1/12	
4	004-2	土師器	甕	SD2043 下層	溝11 取上No.1	推定口径17.2 残存高10.5	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12	
5	004-1	土師器	甕	SD2043 下層	溝11 取上No.2	推定口径17 残存高10.3	外面 ハ・ナ 内面 ナリ・ハ・ナ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12	
6	003-7	土師器	皿	SD2043	溝11	推定口径21.2 器高2.9	外面 ナ・ヘラスリ? 内面 ナ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 5/12	内外面が剥離
7	003-8	須恵器	壺	SD2043	溝11	残存高3.5	外面 ロコナ 内面 ロコナ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	内面に自然釉
8	003-9	須恵器	蓋	SD2043	溝11	推定口径16.2 残存高3.3	外面 ロコナ・ロコナ 内面 ロコナ・ナ	密	良	褐灰10YR4/1	口縁部 3/12	外面に自然釉・重 ね焼き痕
9	003-4	陶器	山茶碗	SD11594	溝9	推定底径5.1 残存高3.3	外面 ロコナ・ナ・貼付高台 内面 ロコナ	密	良	灰黄褐10YR6/2	底部 4/12	内面に自然釉
10	003-2	陶器	山茶碗	SD11594	溝9	口径16.4 器高5.8 底径6.5	外面 ロコナ・ナ・貼付高台 内面 ロコナ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 完形	内外面に自然釉
11	003-3	白磁	碗	SD11594	溝9	残存高2.1	外面 ロコナ 内面 ロコナ	密	良	釉・蒸栗茶S01 素地・灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	内外面に施釉
12	002-1	須恵器	蓋	SD11592 上層	溝1上層	推定口径17.6 残存高2	外面 ロコナ 内面 ロコナ	密	良	灰7.5Y6/1	口縁部 2/12	
13	002-4	須恵器	杯	SD11592 上層	溝1上層	推定口径20.5 器高4 底径12	外面 ロコナ・ロコナ 内面 ロコナ・ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 3/12	
14	001-8	須恵器	杯	SD11592 上層	溝1上層	推定底径12.2 残存高2.4	外面 ロコナ・ヘラ切後ナ・貼付高台 内面 ロコナ・ナ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 3/12	
15	004-5	須恵器	長頸壺	SD11592 上層	溝1上層	推定口径11 残存高13	外面 ロコナ・沈線 内面 ロコナ	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	口縁部 2/12	外面に沈線2条
16	013-1	須恵器	甕	SD11592 上層	溝1 取上No.1	推定口径32.3 器高57.4	外面 ロコナ・平行ナ・ナ後ナ 内面 ロコナ・同心円当具・当具後ナ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部 4/12	胴部内面は茶褐色
17	002-2	土師器	杯	SD11592 上層	溝1上層	残存高2.1	外面 ナ 内面 ナ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	
18	002-3	土師器	杯	SD11592 上層	溝1上層	残存高2.2	外面 ナ 内面 ナ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	粘土接合痕
19	001-7	土師器	杯	SD11592 上層	溝1上層	推定口径13.5 器高2.8	外面 ナ 内面 ナ	密	良	橙5YR7/8	口縁部 1/12	底部内面が剥離
20	001-6	土師器	皿	SD11592 上層	溝1上層	推定口径21.6 残存高3.7	外面 ナ・ヘラスリ 内面 ナ	密	良	橙2.5YR6/6	口縁部 1/12	
21	001-5	土師器	皿	SD11592 上層	溝1上層	推定口径21.7 残存高2.4	外面 ナ 内面 ナ	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12	
22	001-4	土師器	盤か皿	SD11592 上層	溝1上層	残存高4.8	外面 ナ・ヘラスリ・把手貼付 内面 暗文	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12	把手が剥離した痕 跡あり
23	010-3	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	残存高6.3	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	
24	007-2	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	推定口径22.1 残存高2.1	外面 ナ 内面 ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
25	006-2	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	推定口径23.4 残存高7.6	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 2/12	
26	010-2	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	推定口径24.4 残存高4.6	外面 ハ・ナ後ナ・ナ 内面 ハ・ナ後ナ・ナ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 3/12	内面に煤付着
27	011-3	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	推定口径24.7 残存高3.3	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ後ナ・ナ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12	外面に煤付着
28	007-1	土師器	長胴甕	SD11592 上層	溝1上層 取上No.4	推定口径24.8 残存高12.3	外面 ハ・ナ 内面 ヘラスリ・ハ・ナ	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁部 2/12	粘土接合痕
29	010-1	土師器	長胴甕	SD11592 上層	溝1 取上No.2	口径28 残存高28	外面 ハ・ナ後ナ・ナ 内面 ヘラスリ・ハ・ナ後ナ・ナ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 完形	
30	011-1	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層 取上No.3	推定口径15.2 残存高3.7	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 4/12	
31	007-3	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	口径15.6 残存高6.5	外面 ハ・ナ後ナ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 10/12	
32	007-4	土師器	鉢	SD11592 上層	溝1上層	推定口径24.6 残存高7.9	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
33	011-2	土師器	甕	SD11592 上層	溝1上層	残存高4.8	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12未満	
34	001-3	土師器	碗	SD11592 下層	溝1下層	推定口径17.6 残存高3.6	外面 ナ・ヘラスリ 内面 ナ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12	
35	008-1	土師器	甕	SD11592 下層	溝1下層	推定口径18.8 残存高3.7	外面 ハ・ナ 内面 ハ・ナ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12	内外面が摩耗
36	004-3	須恵器	杯	SP11598	n11 Pit1	残存高3.8	外面 ロコナ 内面 ロコナ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	外面に自然釉
37	004-4	土師器	杯	SK11597	土坑17	推定口径12.7 器高2.5	外面 ナ 内面 ナ	密	良	橙5YR6/8	口縁部 1/12	外面が剥離
38	005-1	須恵器	鉢	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径23.2 器高9.3	外面 ロコナ・ナ・手持ちヘラスリ 内面 ロコナ	密	不良	橙5YR6/6	口縁部 2/12	焼成が不良で、色 調が灰白から褐色 系

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表⑥

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
39	002-5	須恵器	杯	SZ11590	溝2	推定口径14.3 器高3.7 底径11	外面 ロクロテ'・ロクロズリ・貼付高台 内面 ロクロテ'・テ'	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 5/12	底部内面が摩耗し 平滑
40	006-1	須恵器	長頸壺	SZ11590 上層	溝2 取上No.1	胴径20.4 底径12.9 残存高16.1	外面 ロクロテ'・ロクロズリ・沈線・櫛描刺突文 内面 ロクロテ'	密	良	黄灰2.5Y5/1	底部 完形	内外面に自然釉、 沈線6条、底部に 焼き歪みと他製品の 融着
41	002-8	土師器	高杯	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	残存高5	外面 ヘラスリ 内面 テ'	密	良	橙2.5YR6/8	-	杯部との境で剥離
42	002-6	土師器	杯	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径13 器高3.5	外面 テ'・ユビ'オエ 内面 テ'	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 2/12	粘土接合痕
43	009-1	土師器	鍋	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径28.5 残存高13.6	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'後テ'・テ'・ユビ'オエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
44	011-4	土師器	鍋	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径22.2 残存高16.5	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・ヲ'後ヘラスリ・テ'	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 3/12	把手の有無は不明
45	015-1	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.2	推定口径25.7 残存高 任意 底径14.6	外面 ヲ'・テ'・ユビ'オエ 内面 ヘラスリ・ヲ'・テ'・ユビ'オエ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12	蒸気孔は、半円形 2箇所か
46	008-6	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径16.9 残存高5.8	外面 ヲ'・テ' 内面 ヘラスリ・ヲ'・テ'	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
47	003-1	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.2	推定口径14.2 残存高5.2	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい橙5YR7/4	口縁部 2/12	
48	002-7	土師器	甌	SZ11590 下層	溝2下層	残存高4.5	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	
49	014-1	土師器	長胴甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径34.6 残存高7.6	外面 ヲ'・ヲ'後テ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	橙5YR7/6	口縁部 3/12	
50	012-1	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.4	推定口径29.6 残存高6.7	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 4/12	
51	011-5	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径21.1 残存高7.5	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 5/12	
52	009-3	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径18.7 残存高7.7	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12	
53	008-3	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.3	推定口径18.5 残存高8.3	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・ヲ'後テ'・テ'	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 4/12	
54	008-4	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径19.7 残存高5.9	外面 ヲ'・ヲ'後テ'・テ' 内面 工具テ'・テ'	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
55	009-2	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径20.9 残存高3.2	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
56	012-3	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2 取上No.2	口径21.3 残存高8.9	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	橙5YR6/6	口縁部 4/12	
57	012-2	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	口径19.2 残存高5.1	外面 ヲ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 9/12	
58	008-5	土師器	甌	SZ11590 上層	溝2上層	推定口径21.3 残存高3.7	外面 ヲ'後テ'・テ' 内面 ヲ'・テ'	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 5/12	
59	001-1	灰釉陶器	椀	包含層	p11 包含層	推定口径14.7 残存高3.6	外面 ロクロテ' 内面 ロクロテ'	密	良	釉:霧茶S15 素地:灰黄褐10YR6/2	口縁部 1/12	内外面に施釉
60	001-2	須恵器	甌	包含層	m9 包含層	残存高4	外面 ロクロテ' 内面 ロクロテ'	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	内外面に自然釉

第202-6次

No.	登録No.	器種	器形	出土遺構名	調査時遺構名	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	001-1	灰釉陶器	椀	SK11599	土坑1	推定底径6.3 残存高1.4	外面 ロクロテ'・テ'・ロクロズリ・貼付高台 内面 ロクロテ'・テ'	密	良	灰白2.5Y7/1	底部 1/12	
2	001-6	土師器	杯	SK11600	土坑3	推定口径14.6 器高3	外面 テ'・ユビ'オエ 内面 テ'	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 4/12	
3	001-2	ロクロ 土師器	椀	SK11600	土坑3	推定底径6.8 残存高1.9	外面 ロクロテ'・テ' 内面 ロクロテ'	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部 2/12	
4	001-4	陶器	山茶椀	SK11604	土坑5	底径7.2 残存高2.7	外面 ロクロテ'・回転糸切・貼付高台・靱殻痕 内面 ロクロテ'・テ'・靱殻痕	密	良	灰白5Y7/1	底部 7/12	
5	001-3	須恵器	壺	SK11604	土坑5	推定底径13.2 残存高9.3	外面 ロクロズリ 内面 ロクロテ'	密	良	灰N7/	底部 4/12	高台部が剥離
6	001-5	土師器	高杯	SK11604	土坑5	残存高10.1 孔径1	外面 テ'・ヘラスリ 内面 穿孔	密	良	灰白10YR8/2	-	
7	001-7	土師器	皿	SK11601	土坑12	口径13.4 器高2.4	外面 テ'・ユビ'オエ 内面 テ'	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部 8/12	

第3表 第202次調査 出土遺物一覧表⑦

付編 史跡現状変更等許可申請

令和4年度に提出された史跡現状変更等許可申請は56件で、申請の内容は、一覧表（第4表）のとおりである。年度内に発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め7件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが5件、町公有地の整備検討のための発掘調査1件である。また、発掘調査を行わなかった47件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさない場合や、すでに発掘調査を実施している箇所での申請である。なお、掘削工事等に当たっては斎宮歴史博物館調査研究課職員並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の工事立会のもとで実施している。これらの申請は、申請者ならびに申請内容で分類すると下記のとおりである。

(A) 個人等による申請

24件の申請があった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた4件（第202-1・2・4・5次調査）について調査を行った。他の20件については、次年度に調査を実施したものや、住宅解体や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

22件の申請があった。内容は、電気・通信関係や、排水路・道路の改修等であり、工事立会いで着工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

8件の申請があった。斎宮歴史博物館および明和町による史跡内環境整備および維持管理等に伴うものである。第202-3次調査は、明和町が新たに公有化した土地での将来的な整備検討のために実施した発掘調査である。

(D) 発掘調査のための申請

1件の申請があった。これは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第203次調査）で、第203次調査では計225.3㎡が調査された。この調査内容は斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

No.	申請地		種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
	大字	小字								
1	斎宮	牛葉 県道428号線内	B	三重県知事	道路修繕	R4.3.25	R4.4.11	21.99㎡	3	
2	斎宮	笛川 1057	A	個人	建築物除却	R4.4.12	R4.5.20	372.7㎡	4	
3	斎宮	東加座 2732-3	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	ウッドテラス等設置	R4.4.14	R4.4.20	1基	1	
4	竹川	中埴内 446-3	B	近畿日本鉄道株式会社鉄道本部名古屋統括部長	踏切道改修	R4.4.18	R4.4.25	58.5㎡	3	
5	竹川	中埴内 422-1,428-1,428-2,429-2,430-2	D	三重県知事	発掘調査	R4.4.28	R4.6.17	225.3㎡	2	第203次調査
6	竹川	中埴内 457-1	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱建替	R4.5.23	R4.6.2	2条	4	
7	斎宮	牛葉 3403-5	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱・支線建替	R4.5.23	R4.6.2	3条	4	
8	斎宮	中西 582-1	A	個人	住宅等除却	R4.5.25	R4.6.2	30.41㎡	4	
9	斎宮	西加座 2681-2	A	個人	コンクリート舗装等	R4.5.30	R4.6.2	44㎡	4	
10	斎宮	御館 2946-3,2946-4,2946-5,2947-1、2947-3,2948-3,2951-1,2952	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	盛土	R4.6.7	R4.7.22	1450㎡	1	
11	竹川	吉里 599-41,599-45	C	三重県知事	工作物除却	R4.6.13	R4.6.13	1基	1	
12	斎宮	中西 581-1,582-1	A	個人	住宅建替	R4.6.9	R4.7.22	656.15	4	第202-4次調査
13	竹川	花園	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱等建替	R4.6.17	R4.6.30	6条	3	
14	斎宮	西加座 2678-2,2768-1	B	中部電力パワーグリッド株式会社松阪営業所配電建設課長	電柱等建替	R4.6.21	R4.6.30	4条	1・3	
15	斎宮	牛葉 3013-1	B	中部電力パワーグリッド株式会社松阪営業所配電建設課長	電柱等建替	R4.6.23	R4.7.4	2条	4	
16	斎宮	西加座 2678-3,2679-5	A	個人	住宅等解体及び建築	R4.6.28	R4.9.9	97.71㎡	4	第204-2次調査
17	斎宮	塚山 3339-1,3345-1	A	個人	資材置場設置	R4.7.8	R4.9.9	1142㎡	3	第202-5次調査 第204-1次調査
18	斎宮	木葉山 95-1	A	個人	カーポート等設置	R4.8.1	R4.8.5	1基ほか	4	
19	斎宮	牛葉 3403-12,3405-5,3403-1	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	R4.8.3	R4.9.9	2157㎡	3	第202-3次調査 R4.10.18(計画変更申請) R4.11.18(計画変更承認)
20	斎宮	牛葉 324	A	個人	建築物除却等	R4.8.4	R4.8.15	16㎡	4	
21	斎宮	内山 3043-17	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	工作物除却	R4.8.10	R4.9.1	2基	3	
22	斎宮	笛川 町道中町4号線内	B	明和町長(建設課)	道路舗装	R4.8.10	R4.9.1	117㎡	3	
23	斎宮	牛葉 324	A	個人	ブロック塀設置等	R4.8.30	R4.9.7	31.76㎡	4	
24	竹川	東裏 288-2,287-3	B	明和町教育委員会教育長	側溝設置	R4.9.1	R4.9.7	4.9㎡	4	
25	斎宮	鈴池 339-1	A	個人	フェンス設置等	R4.9.6	R4.9.9	2.7㎡	4	
26	斎宮	西前沖 2604-32	A	個人	住宅解体	R4.9.5	R4.9.7	100.9㎡	4	
27	斎宮	西前沖 2604-32	A	個人	住宅建築	R4.9.5	R4.10.12	66.8㎡	4	
28	斎宮	牛葉 324	A	個人	工作物除却等	R4.9.12	R4.9.20	128.5㎡	4	
29	竹川	祓戸 716	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱等建替	R4.9.28	R4.10.18	3条	3	
30	斎宮	西加座 2676	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	支線新設	R4.9.30	R4.10.18	1条	1	
31	斎宮	西加座 2721-4	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	支線新設	R4.9.30	R4.10.18	1条	1	
32	斎宮	西前沖 2657-1	A	個人	コンクリート舗装等	R4.10.7	R4.10.18	9㎡	4	
33	竹川	南裏 県道伊勢小俣松阪線 内	B	明和町長(建設課)	カーブミラー設置	R4.10.14	R4.11.1	1基	3	
34	斎宮	内山 木葉山 町道竹川3号線、町道竹川4号線 町道牛葉20号線	B	明和町長(上下水道課)	水道管改修	R4.10.18	R4.11.1	458㎡	3	
35	斎宮	東前沖 2489-1	B	中部電力パワーグリッド株式会社松阪営業所配電建設課長	電柱新設	R4.10.20	R4.11.1	1条	3	
36	竹川	東裏 361-1	B	明和町長(生活環境課)	リサイクルステーション設置	R4.11.2	R4.11.14	1基	3	
37	斎宮	牛葉 324	A	個人	住宅建築	R4.11.7	R4.12.16	60.9㎡	4	第204-4次調査
38	竹川	南裏 227-2,228-1,228-3,228-4	A	個人	工作物除却等	R4.11.8	R4.11.21	73.2㎡	4	
39	竹川	南裏 225-4,229-2	A	個人	工作物除却等	R4.11.8	R4.11.21	34.5㎡	4	
40	竹川	中埴内 455-1	A	個人	ブロック塀設置	R4.11.15	R4.11.28	16.2㎡	4	R5.6.6(計画変更申請) R5.6.19(計画変更承認)
41	竹川	東裏 344-1,345	B	中部電力パワーグリッド株式会社松阪営業所配電建設課長	電柱等建替	R4.11.8	R4.11.28	5条	3・4	
42	竹川	南裏 228-2	A	個人	建築物除却	R4.11.21	R4.11.28	224.7㎡	4	
43	斎宮	牛葉 324	A	個人	上水道工事	R4.12.1	R4.12.9	3.9㎡	4	
44	竹川	南裏 228-4	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱等建替	R4.12.5	R4.12.13	4条	4	
45	斎宮	中西 626-1	B	西日本電信電話株式会社三重支店長	電柱等新設	R4.12.9	R4.12.23	7㎡	4	
46	斎宮	西前沖 2657-1地先	B	明和町長(建設課)	カーブミラー設置	R4.12.15	R4.12.26	1基	1	
47	斎宮	牛葉 2757,2757-1,2757-2	C	明和町町内遺産活用推進協議会会長	説明板設置	R4.12.23	R4.12.26	2基	4	
48	斎宮	上園、広頭、内山、牛葉、木葉山 町道牛葉14号線～町道牛葉・袖ノ木灌水線内	B	三重県知事	農業用水管撤去等	R5.1.10	R5.1.24	L=419m	1・3	
49	斎宮	中西 589	A	宗安寺住職	納骨堂設置	R5.2.2	R5.3.17	5㎡	4	
50	斎宮	中西 2744	A	個人	建物等除却	R5.2.13	R5.2.17	208㎡	4	
51	斎宮	下園 2811	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	マンホール蓋更新	R5.2.16	R5.3.1	1㎡	1	
52	斎宮	篠林 3143-2	A	個人	住宅建築	R5.2.27	R5.4.21	96.4㎡	3	第204-3次調査
53	斎宮	中西 581-1,581-2	C	明和町長(斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	R5.2.28	R5.4.21	180㎡	3	
54	斎宮	中西 581-3,582-3	B	三重県知事	交差点改良	R5.3.6	R5.4.21	884㎡	3	第204-5次調査
55	竹川	中埴内 422-1,428-1,428-2,428-3,429-2,430-2	D	三重県知事	計画調査	R5.3.14	R5.4.21	400㎡	2	第205次調査
56	斎宮	木葉山 300	A	個人	門扉設置	R5.3.23	R5.3.30	13.3㎡	4	

第4表 令和4年度現状変更等許可申請一覧

写真図版 1



第202-1次調査 調査区全景（西側半分、南西から）



第202-1次調査 調査区全景（東側半分、南西から）



第202-1次調査 S15469（東から）



第202-1次調査 SZ11404（南から）



第202-2次調査 調査区全景（北東から）



第202-4次調査 調査区全景（南から）



第202-3次調査 調査区遠景（南から）

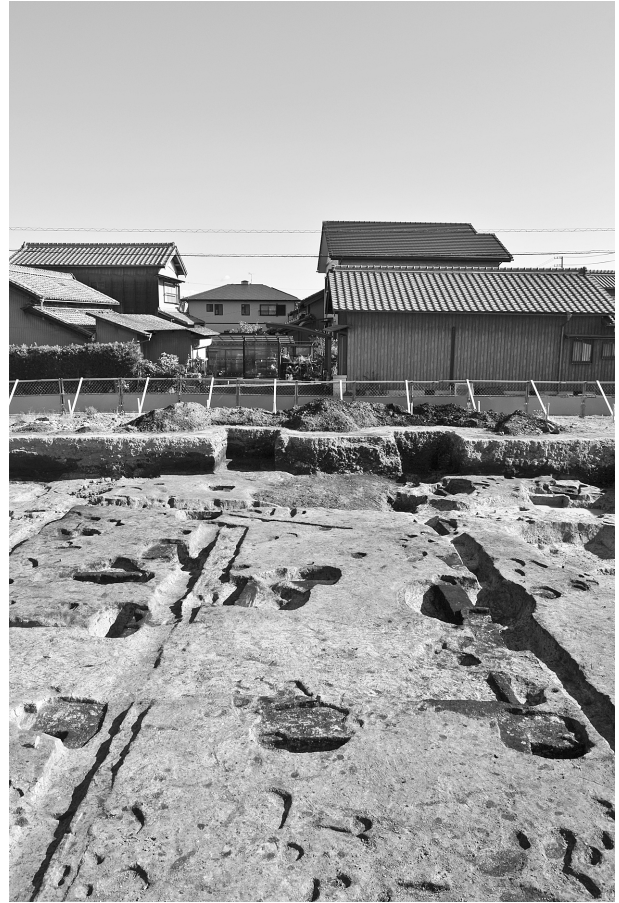


第202-3次調査 調査区近景（南から）

写真図版 3



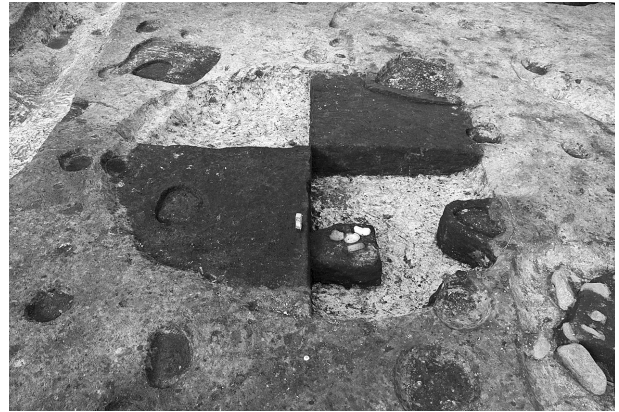
第202-3次調査 SB11530 (東から)



第202-3次調査 SB11531 (西から)



第202-3次調査 SB11532 (北から)



第202-3次調査 SK11554 (南から)



第202-5次調査 SB11589、SD2042・2043 (西から)



第202-5次調査 SZ11593 (北東から)



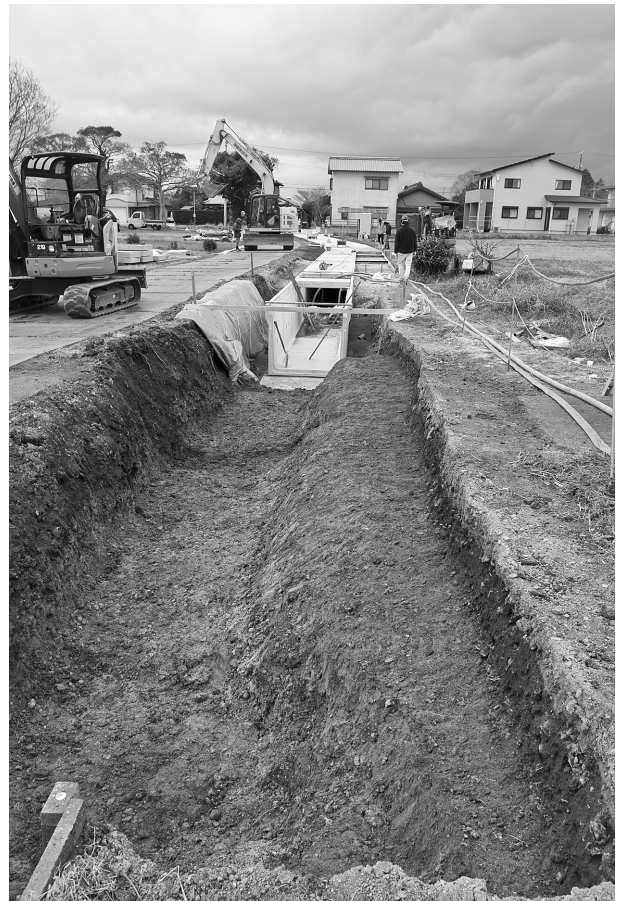
第202-5次調査 調査区全景（北西から）



第202-5次調査 調査区全景（南東から）



第202-6次調査 調査区全景 西から43m地点（東から）



第202-6次調査 調査区全景 東端（東から）

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと れいわよねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちようさほうこく							
書名	史跡齋宮跡 令和4年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町齋宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	40							
編著者名	小原雄也 川部浩司 味噌井拓志							
編集機関	齋宮歴史博物館（調査研究課） 明和町（齋宮跡・文化観光課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596 (52) 7126							
発行年月日	西暦 2024年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 齋宮跡	た き ぐんめい わ ちよう 多気郡明和町 さいくう たけがわ 齋宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20220401 ～ 20230331	全6件 1912.4㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡齋宮跡第202次調査）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
齋宮跡第202次	官衙	弥生・古墳・ 奈良・平安・ 鎌倉・江戸		方形周溝墓・古墳 ・竪穴建物・掘立 柱建物・掘立柱列 ・土坑・井戸・溝 ・柱穴		弥生土器・土師器・須 恵器・緑釉陶器・青磁 ・白磁・灰釉陶器・黒 色土器・ロクロ土師器 ・中世陶器・近世陶磁 器・製塩土器・土製品 ・石製品・鉄製品		
要約	本調査は、史跡内の現状変更に伴う緊急発掘調査の成果を記載している。主な調査成果として、史跡北西部の古里地区・塚山地区の第202-1次調査、第202-5次調査では弥生時代後期の方形周溝墓や古墳時代中～後期とみられる古墳のほか、奈良時代の掘立柱建物・掘立柱列等を確認した。史跡中央部の牛葉地区の第202-3次調査では、方格街区の外側にあたる地区で奈良時代後期から平安時代前期の大型掘立柱建物群が確認された。史跡北部の第202-6次調査では、方格街区の西加座北区画の北辺にあたる区画溝の様相が明らかになった。これらは史跡内の新たな情報として蓄積し、今後の史跡内発掘調査報告書にも反映する。							

史跡 齋宮跡

令和4年度

現状変更緊急発掘調査報告

令和6(2024)年3月19日

編集 齋宮歴史博物館
明和町
発行 明和町
印刷 光出版印刷株式会社